

# 地域防災力アンケートの結果

平成20年(2008年)3月9日  
滋賀県 流域治水政策室

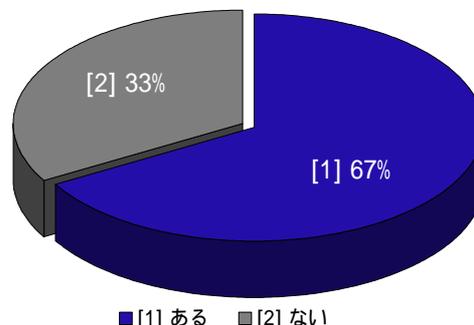
# 「地域防災力アンケート」結果まとめ（平成19年12月調査）

回答数 2465 自治会/3235 自治会，回収率 76.2%（平成20年3月1日現在）

## 【地域の状況について】

自治会行事は10年前と変わらないか、増えており(問2)、行事へ半数以上の住民が参加している自治会が多いようです(問3)。また、自主防災組織の組織率は67%で、ない自治会でも7割以上の自治会が必要と考えています(問6、問10)。

一方、組織の構成としては、自治会役員とは別の専任役員からなる組織が2割以下で(問8)、役員の任期も1年が最も多い状況です(問9)。



(問6) 自主防災組織の有無について

多くの自治会は、「大きな川が近くにある」と回答しています(問4)。防災訓練については、毎年もしくは時々実施している自治会が7割を超え(問11)、そのうち5割近くの自治会で半数以上の住民の参加があります(問12)。一方で、訓練内容は、消火訓練や地震を想定した訓練が中心で、大雨を想定した訓練を実施している自治会はごくわずかです(問13)。

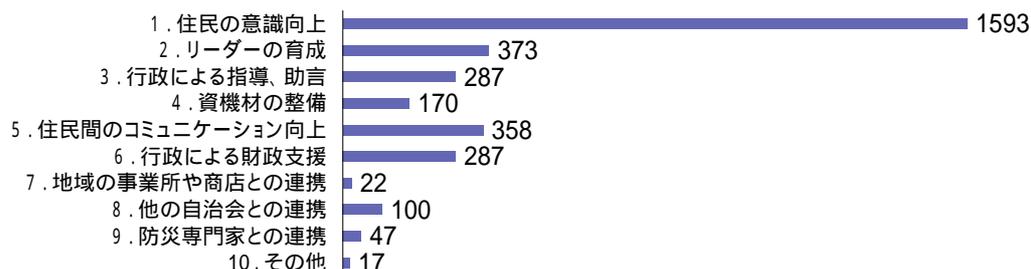


(問4) 地域の身近な地形



(問12) 自治会で実施している訓練の内容について

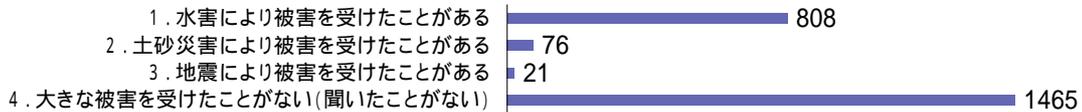
自治会の防災力を高めるために必要なこととして、「住民の意識向上」を挙げる自治会が圧倒的に多い結果となっています(問19)。



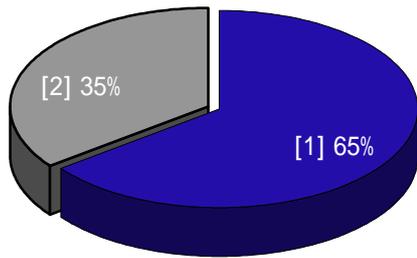
(問19) 自治会の防災力を高めるために必要なことについて

## 【被災履歴について】

洪水を含む大きな自然災害を受けたことがない自治会が6割以上にのぼり、自然災害のうち水害による被害は、多くの自治会で経験されています(問21)。被災を受けたことのある地域では、6割以上で被災経験者はいると答えています(問26)、「若い人や新住民は過去の被災を知らない」と5割以上が答えています(問22)。

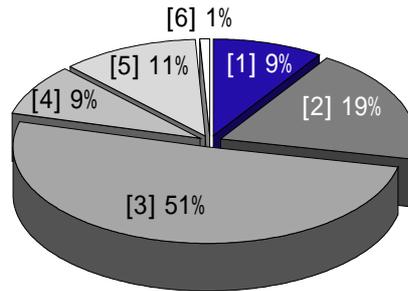


(問21) 地域の災害経験について



- 1. 被害を受けた経験者がいる
- 2. 被害を受けた経験者がいない

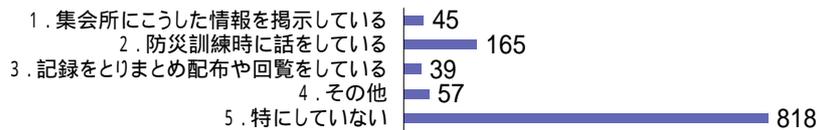
(問26) 地域の被災経験者について



- 1. みんなが知っていると思う
- 2. だいたいみんなが知っていると思う
- 3. 若い世代は知らないと思う
- 4. 新住民は知らないと思う
- 5. ほとんど知らないと思う
- 6. まったく知らないと思う

(問22) 地域の災害経験の認知度について

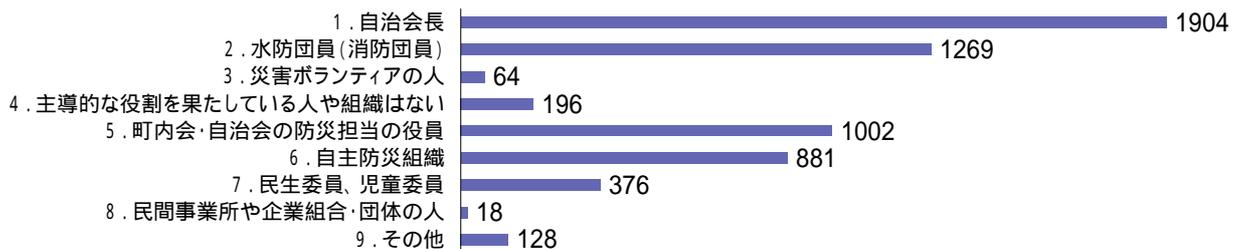
被災経験のある自治会のうち、被災体験の伝承方法は「言い継ぎ・言い伝え」が最も多く(問23)、これらの伝承を住民が共有できるような工夫を「特にしていない」自治会が8割を超えています(問24)。



(問24) 被災記録の伝承について

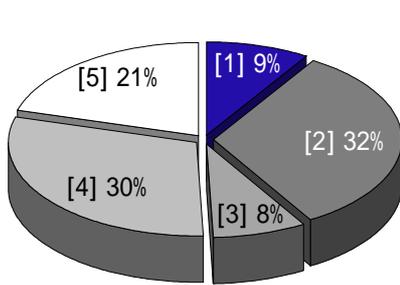
## 【水害に対する意識について】

水害に関する防災活動では、自主防災組織ではなく自治会長や水防団員が主導的な役割を果たしている自治会が多いようです(問27)。



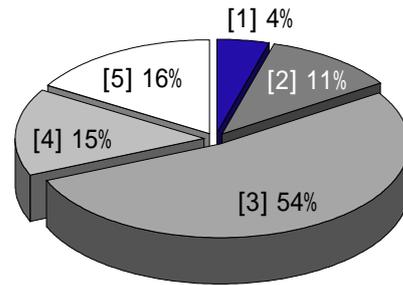
(問27) 水害に関する防災活動の主導的な役割について

また、過半数の自治会が洪水ハザードマップを見たことがなく(問 30)、家屋が浸水するような水害に対しては「危険が低い」もしくは「危険がない」と考えている自治会が 8 割以上となっています(問 31)。



- 1. 細かいところまで詳しく見た
- 2. ざっと大まかだけが見た
- 3. 少しは見た
- 4. そのような地図は見たことがない
- 5. そのような地図はない

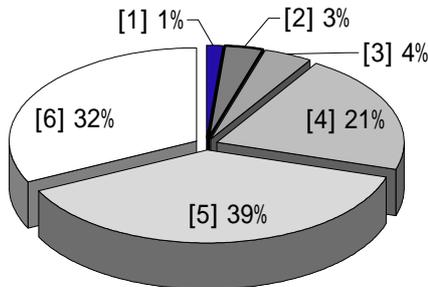
(問 30) ハザードマップの認知度について



- 1. かなり危険性が高い
- 2. やや危険性が高い
- 3. 危険性は低い
- 4. 危険性はまったくない
- 5. わからない

(問 31) 危険の認知度について

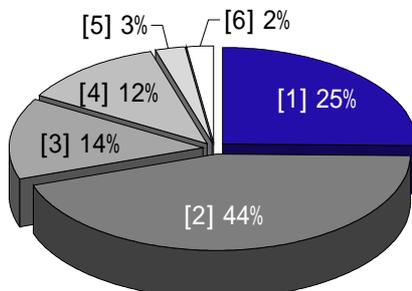
水害への備えをしている住民が半数以上であると答えている自治会は 1 割以下となっています(問 33)。水害に対しての対策や水防訓練を全く行っていない自治会が多い状況です(問 32、問 34)。また、水防訓練を行っている自治会でも半数近くが「参加はほとんど役員だけ」と回答しています(問 35)。



- 1. ほとんど全員が何らかの備えをしている
- 2. かなりの人が備えをしている
- 3. 約半数の人は備えをしている
- 4. 何らかの備えをしている人は半数に満たない
- 5. 備えをしている人はほとんどいない
- 6. わからない

(問 33) 水害に備えている住民の割合について

水害が発生する危険が高まった場合に、自治会内への連絡方法は、戸別訪問、電話連絡が多くなっています(問 38)。危険がある地区の人に「避難の呼びかけができない」と考えている自治会は約 1 割ですが(問 39)、その主な理由は「体制が整っていないこと」です(問 40)。また、自治会あるいは自主防災組織が自主的に避難を呼びかければ、「ほとんど全員」もしくは「かなりの人」が避難するだろうと 7 割近くの自治会が回答しています(問 42)。



- 1. ほとんど全員が避難してくれるだろう
- 2. かなりの人が避難してくれるだろう
- 3. 半分くらいは避難してくれるだろう
- 4. 避難する人は少ないだろう
- 5. ほとんどの人が避難してくれないだろう
- 6. その他

(問 42) 避難の呼びかけに応じる住民の割合について

**留意事項**

本概要版の回答項目の標記は、実際のアンケート時の回答項目を一部簡略化して標記しています。

# 地域防災力に関する調査

調査時期：平成19年12月

対象者：滋賀県内の自治会長を対象

回答数：2465自治会/3235自治会（平成20年3月1日時点）

## 地域の状況について

問1 あなたの自治会への加入世帯数を記入願います。

(略)

問2 次の行事のうち、あなたの自治会で実施されている行事について住民の参加状況はどの程度ですか。（実施されている行事に をつけ、参加状況にも を付けてください）

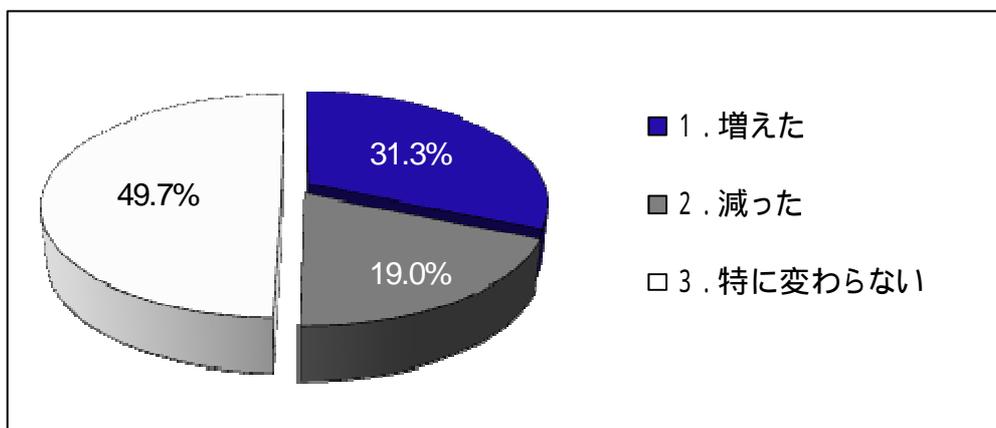
各行事とも7割以上の自治会で実施されている。また、どの行事についても6割前後の自治会で半数以上の住民が参加している。

項目	半数以上	半数以下	ほとんど役員だけ	回答数
1. お祭り	1331	593	145	2073
2. レクリエーション	967	751	81	1803
3. 清掃等のボランティア活動	1892	311	151	2358
4. お盆や正月の行事	1093	499	179	1774
5. 運動会	1107	668	123	1902

問 3 あなたの自治会では、昔(10年程度前)と比べて地域で実施される行事は増えましたか。それとも減りましたか。ひとつ をしてください。

10年前と比較して、地域で実施される行事は「変化がない」と回答した自治会が最も多く49.7%、次いで「増えた」自治会が31.3%である。

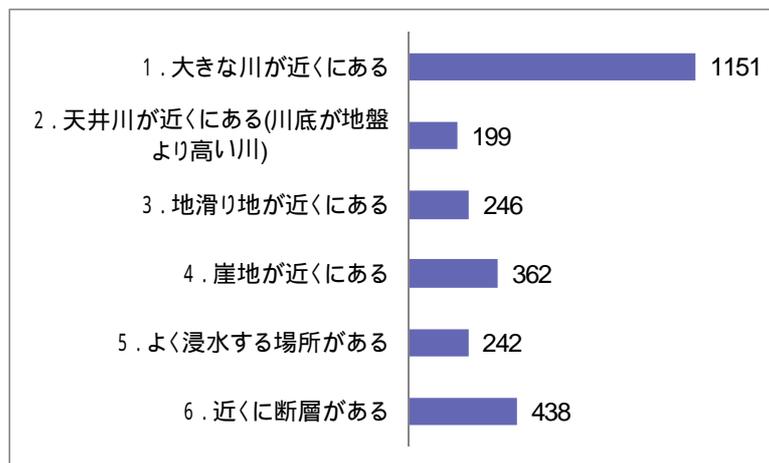
項目	人数	割合
1. 増えた	752	31.3%
2. 減った	455	19.0%
3. 特に変わらない	1192	49.7%
回答なし	66	
回答数	2399	



問4 あなたの自治会のある地域の身近な地形についてあてはまるものすべてに をしてください。

大きな川が近くにあると回答した自治会が全体の約5割(46.7%)である。

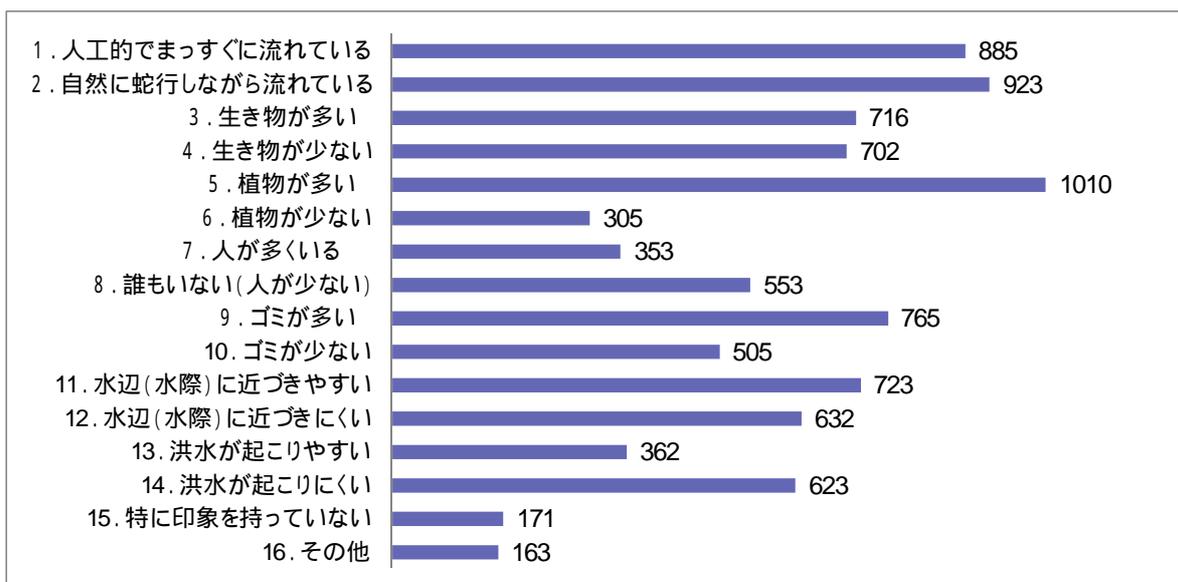
項 目	人数
1.大きな川が近くにある	1151
2.天井川が近くにある(川底が地盤より高い川)	199
3.地滑り地が近くにある	246
4.崖地 <small>ガケチ</small> が近くにある	362
5.よく浸水する場所がある	242
6.近くに断層がある	438
回答なし	681



問5 あなたの自治会のある地域の身近な川について、あてはまるものすべてに をしてください。

「植物が多い」と回答した自治会が最も多く自治会数の41.0%である。川の形状については、「人工的でまっすぐ流れている」(36.9%)と「自然に蛇行しながら流れている」(37.4%)が僅差となっている。

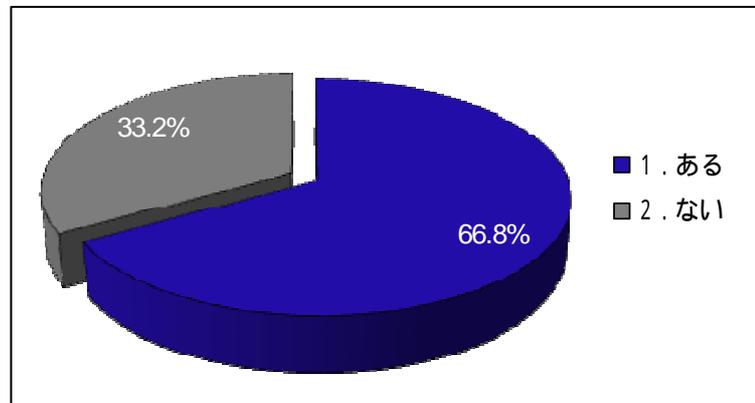
項目	人数
1.人工的でまっすぐに流れている	885
2.自然に蛇行しながら流れている	923
3.生き物が多い	716
4.生き物が少ない	702
5.植物が多い	1010
6.植物が少ない	305
7.人が多くいる	353
8.誰もいない(人が少ない)	553
9.ゴミが多い	765
10.ゴミが少ない	505
11.水辺(水際)に近づきやすい	723
12.水辺(水際)に近づきにくい	632
13.洪水が起こりやすい	362
14.洪水が起こりにくい	623
15.特に印象を持っていない	171
16.その他	163



問 6 あなたの自治会には住民による自主的な防災活動が組織的に行われることを目的とした自主的な組織(以下「自主防災組織」)がありますか。ひとつ をしてください。

自主防災組織の組織率は 66.8%である。

項 目	人数	割合
1.ある	1625	66.8%
2.ない	809	33.2%
回答なし	27	
回答数	2434	

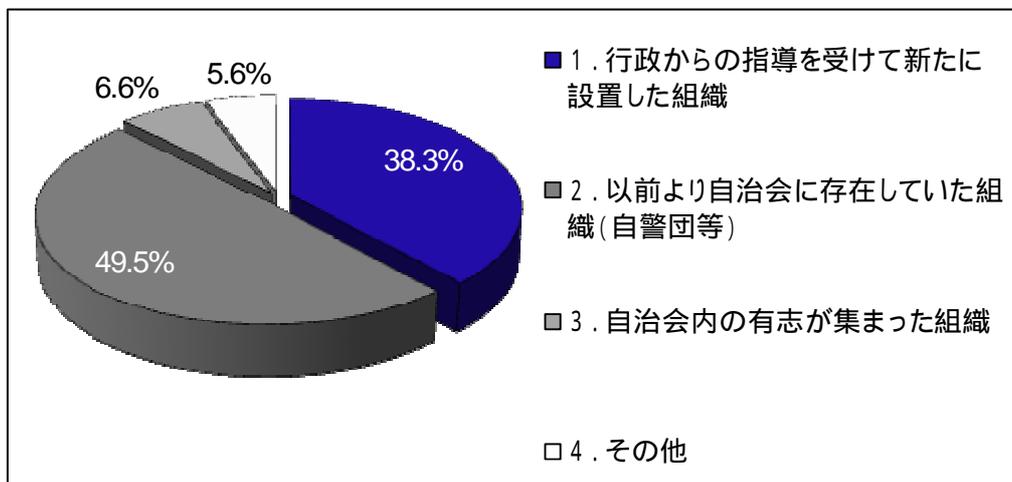


問 7 問 6 の質問に「1.ある」と答えた方に伺います。

自主防災組織とはどのような組織ですか。ひとつ をしてください。

約半数の自治会の自主防災組織が「以前より自治会に存在していた組織」である。  
また、「行政からの指導を受けて新たに設置した組織」が 38.3%ある。

項 目	人数	割合
1.行政からの指導を受けて新たに設置した組織	610	38.3%
2.以前より自治会に存在していた組織(自警団等)	789	49.5%
3.自治会内の有志が集まった組織	105	6.6%
4.その他	89	5.6%
回答なし	872	
回答数	1593	

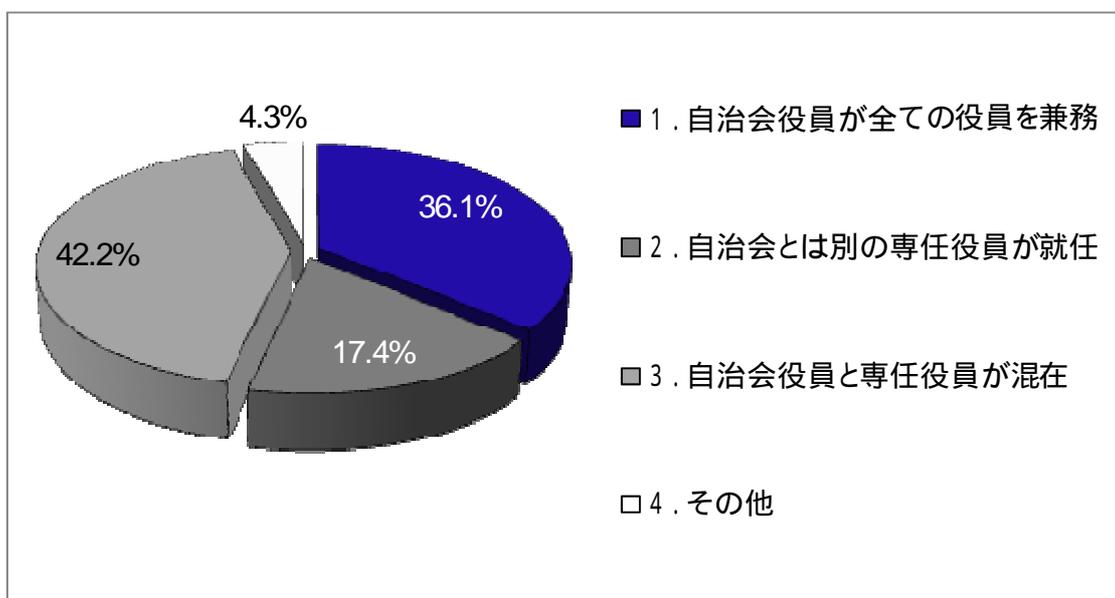


問 8 問 6 の質問に「1. ある」と答えた方に伺います。

自主防災組織の役員はどのような方ですか。ひとつ をしてください。

「自治会役員とは別に自主防災組織専任の役員が就任」している組織は全体の 17.4%である。

項 目	人数	割合
1.自治会役員が全ての役員を兼務	579	36.1%
2.自治会とは別の専任役員が就任	280	17.4%
3.自治会役員と専任役員が混在	678	42.2%
4.その他	69	4.3%
回答なし		
回答数	1606	

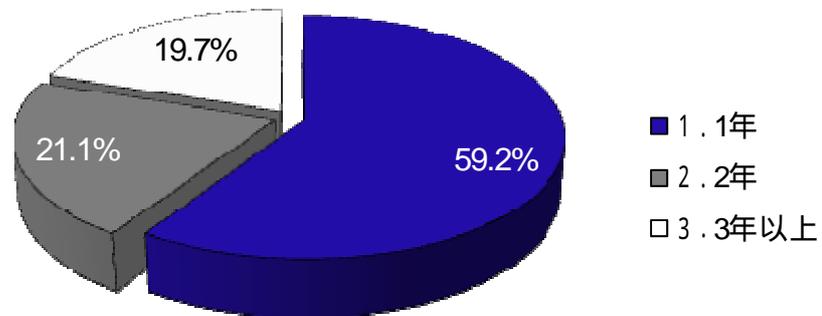


問9 問6の質問に「1.ある」と答えた方に伺います。

自主防災組織の役員の任期は何年ですか。ひとつ をしてください。

自主防災組織の役員の任期が「1年」の自治会が59.2%である。

項目	人数	割合
1.1年	933	59.2%
2.2年	332	21.1%
3.3年以上	311	19.7%
回答なし	889	
回答数	1576	

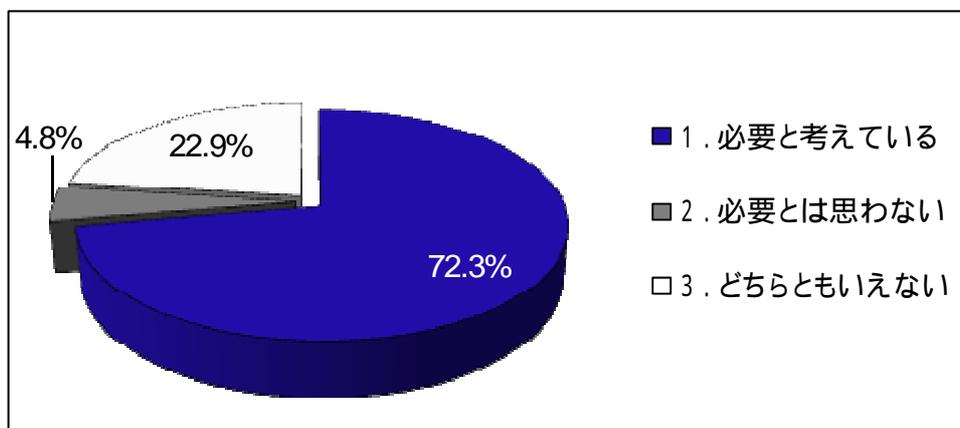


問 10 問 6 の質問に「2. ない」と答えた方に伺います。

今後、地域に自主防災組織は必要と考えますか。ひとつ をしてください。

自主防災組織が組織されていない自治会の 72.3%が「自主防災組織は必要」と回答している。

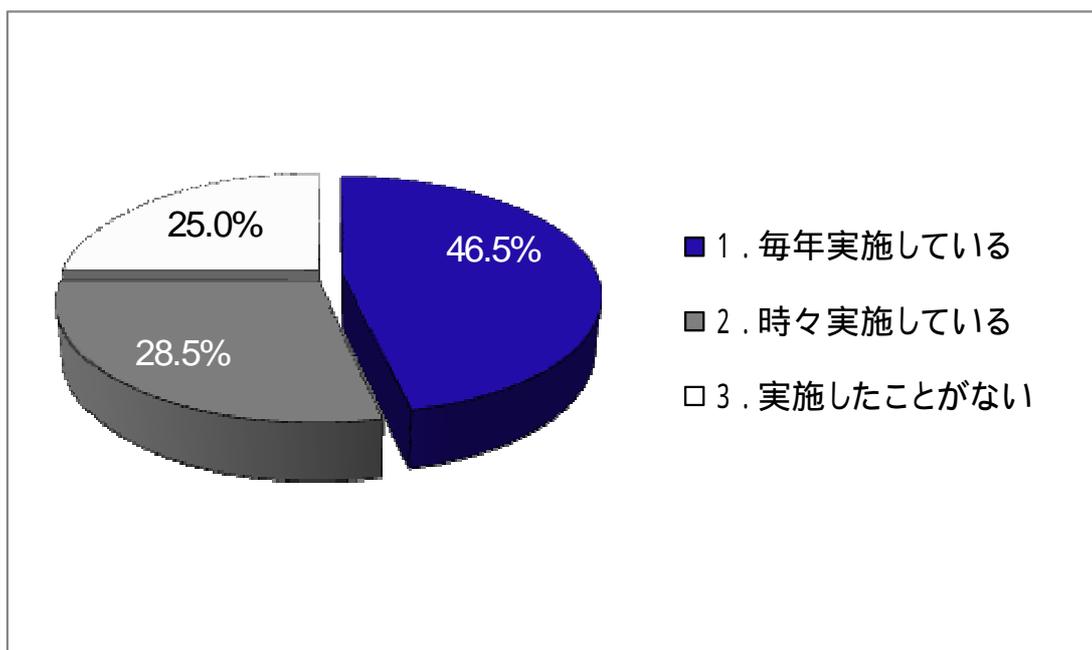
項 目	人数	割合
1. 必要と考えている	626	72.3%
2. 必要とは思わない	42	4.8%
3. どちらともいえない	198	22.9%
回答なし	1599	
回答数	866	



問 11 あなたの自治会では防災訓練を実施したことはありますか。ひとつ をしてください。

46.5%の自治会において、防災訓練を「毎年実施している」と回答している。

項 目	人数	割合
1. 毎年実施している	1125	46.5%
2. 時々実施している	690	28.5%
3. 実施したことがない	604	25.0%
回答なし	46	
回答数	2419	

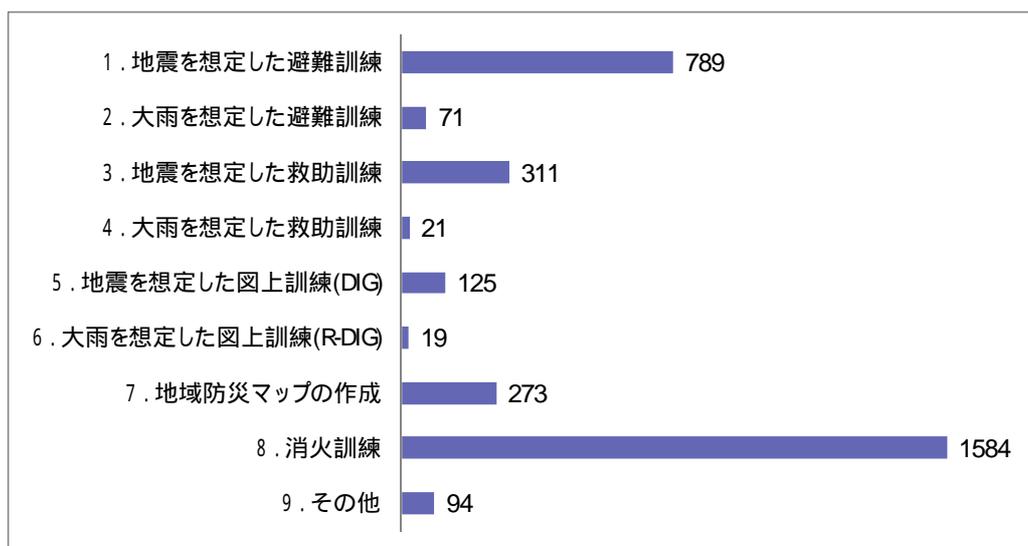


問 12 問 11 の質問に「1. 毎年実施、2. 時々実施」と答えた方に伺います。

訓練の内容はどのようなものですか。いくつでも をしてください。

防災訓練を実施している自治会の 87.1%が「消火訓練」を実施していると回答しており、続いて「地震を想定した避難訓練」を実施している自治会が 43.4%であった。

項 目	人数
1. 地震を想定した避難訓練	789
2. 大雨を想定した避難訓練	71
3. 地震を想定した救助訓練	311
4. 大雨を想定した救助訓練	21
5. 地震を想定した図上訓練(DIG)	125
6. 大雨を想定した図上訓練(R-DIG)	19
7. 地域防災マップの作成	273
8. 消火訓練	1584
9. その他	94
回答なし	0

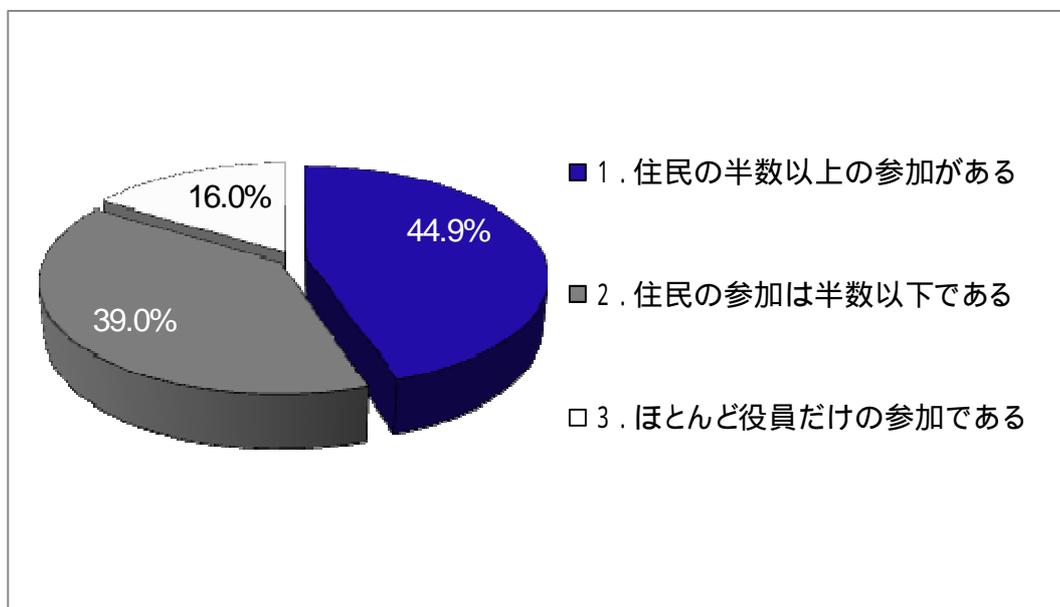


問 13 問 11 の質問に「1. 毎年実施、2. 時々実施」と答えた方に伺います。

訓練には、どれくらい住民の参加がありますか。ひとつ をしてください。

防災訓練に「住民の半数以上が出席している」自治会の(本設問の回答数に対する)割合は 44.9% である。

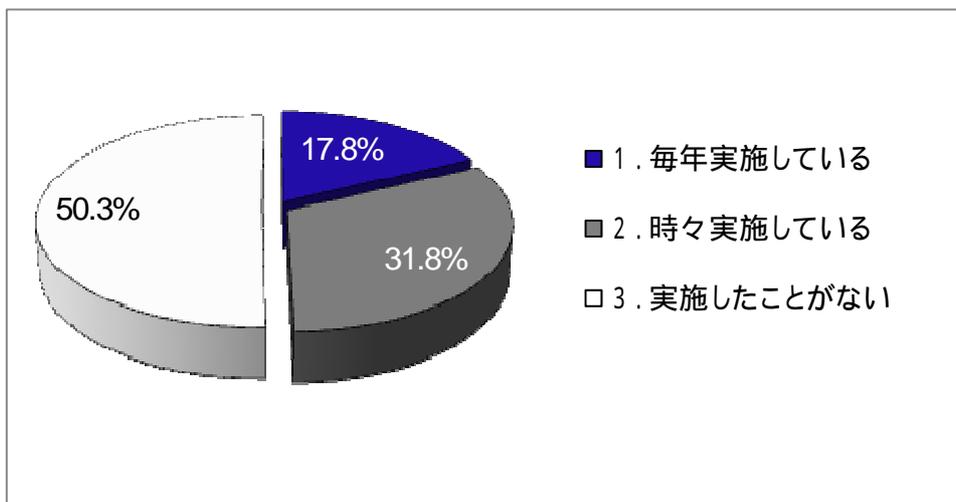
項 目	人数	割合
1. 住民の半数以上の参加がある	810	44.9%
2. 住民の参加は半数以下である	704	39.0%
3. ほとんど役員だけの参加である	289	16.0%
回答なし	12	
回答数	1803	



問 14 あなたの自治会では防災に関する研修会や学習会など実施したことはありますか。ひとつ をして ください。

防災に関する研修会や学習会を「毎年実施している」自治会が約半数（50.3%）である。

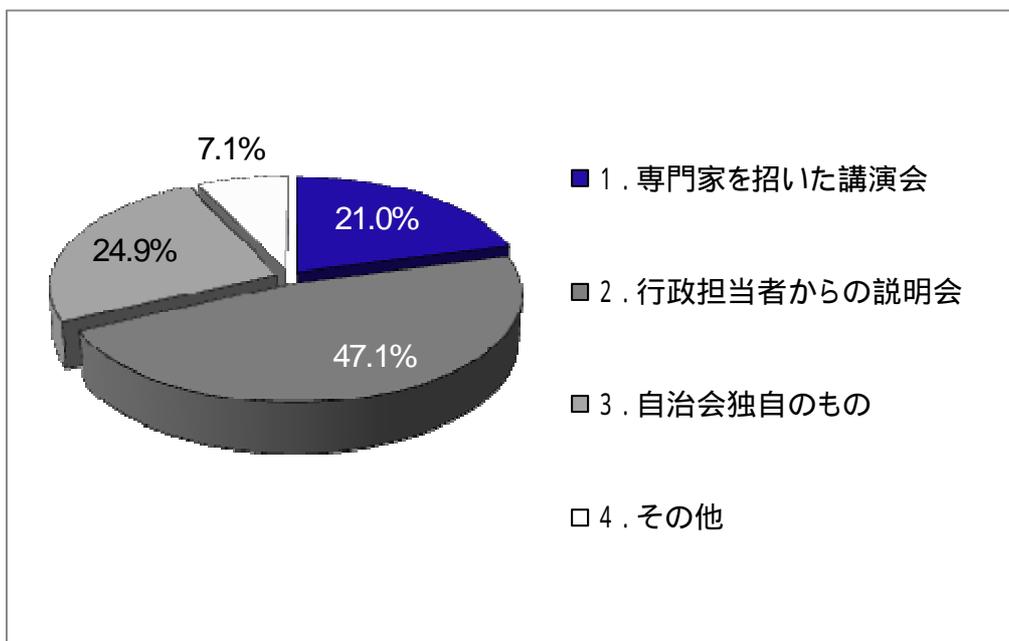
項 目	人数	割合
1. 毎年実施している	429	17.8%
2. 時々実施している	766	31.8%
3. 実施したことがない	1211	50.3%
回答なし	59	
回答数	2406	



問 15 問 14 の質問に「1. 毎年実施、2. 時々実施」と答えた方に伺います。  
 研修の内容はどのようなものですか。ひとつ をしてください。

防災に関する研修会・学習会の内容は、「行政担当者からの説明会」が最も多く、約半数(47.1%)  
 となっている。

項 目	人数	割合
1. 専門家を招いた講演会	240	21.0%
2. 行政担当者からの説明会	539	47.1%
3. 自治会独自のもの	285	24.9%
4. その他	81	7.1%
回答なし	50	
回答数	1145	

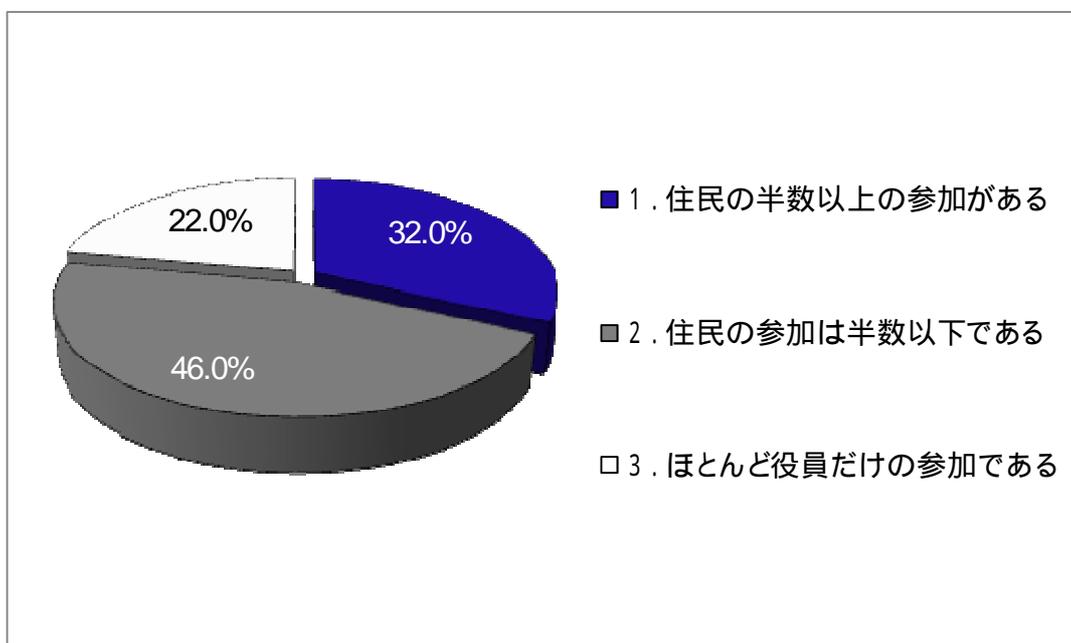


問 16 問 14 の質問に「1. 毎年実施、2. 時々実施」と答えた方に伺います。

研修には、どれくらいの参加がありますか。ひとつ をしてください。

防災に関する研修会・学習会を実施している自治会のうち、「住民の半数以上の参加がある」自治会は 32.0%である。

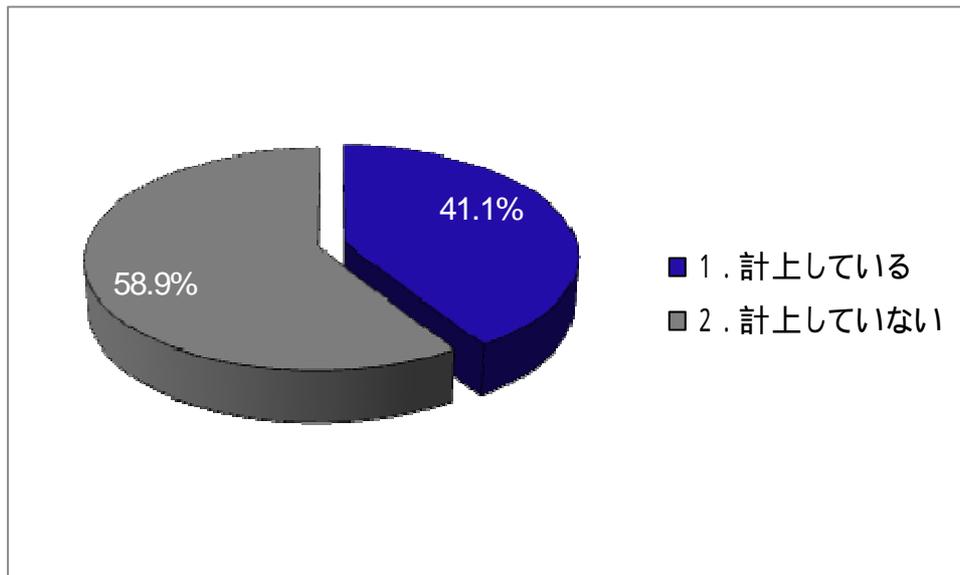
項 目	人数	割合
1. 住民の半数以上の参加がある	380	32.0%
2. 住民の参加は半数以下である	547	46.0%
3. ほとんど役員だけの参加である	261	22.0%
回答なし	7	
回答数	1188	



問 17 あなたの自治会では防災活動(訓練等)を行うため、予算を計上していますか。ひとつ をしてください。

防災活動を行うために予算を「計上している」自治会は41.1%である。

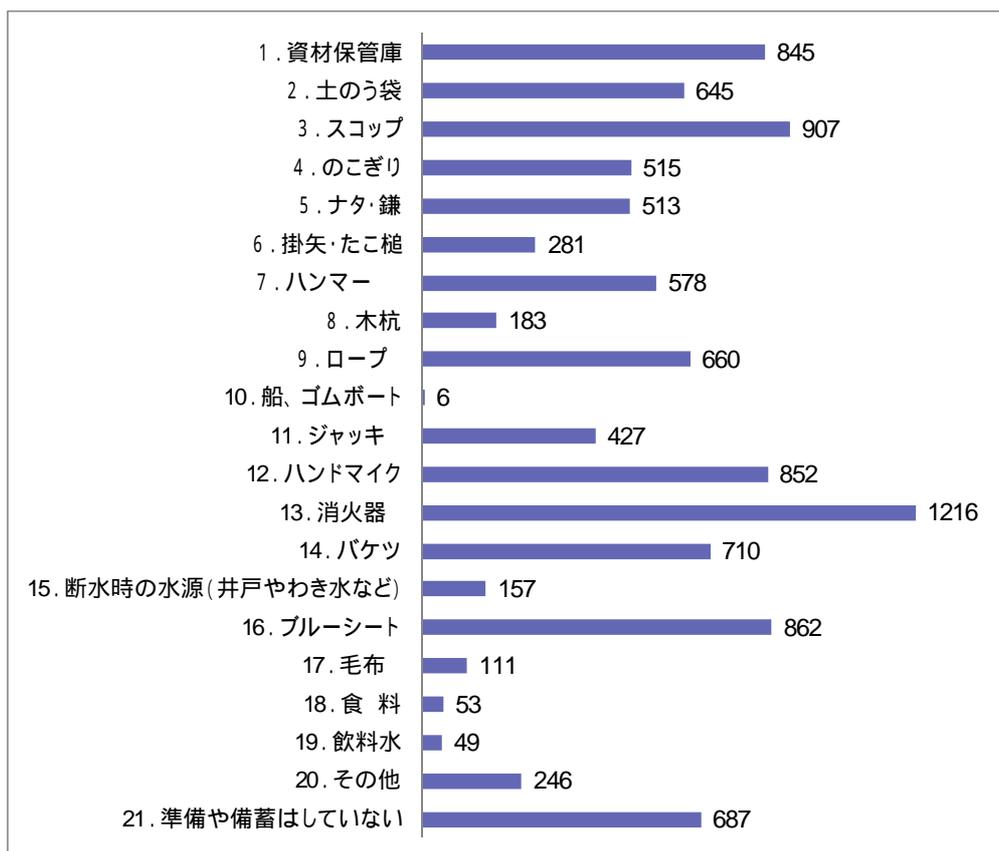
項 目	人数	割合
1.計上している	646	41.1%
2.計上していない	927	58.9%
回答数	1573	



問 18 あなたの自治会では防災用の資機材の整備や、非常時のための備蓄をされていますか。整備、備蓄されているものにすべて をしてください。

整備、備蓄されているもので最も多いのは「消火器」で、49.3%の自治会が持っている。次いで、「スコップ」「ブルーシート」「資材保管庫」の順で多い。

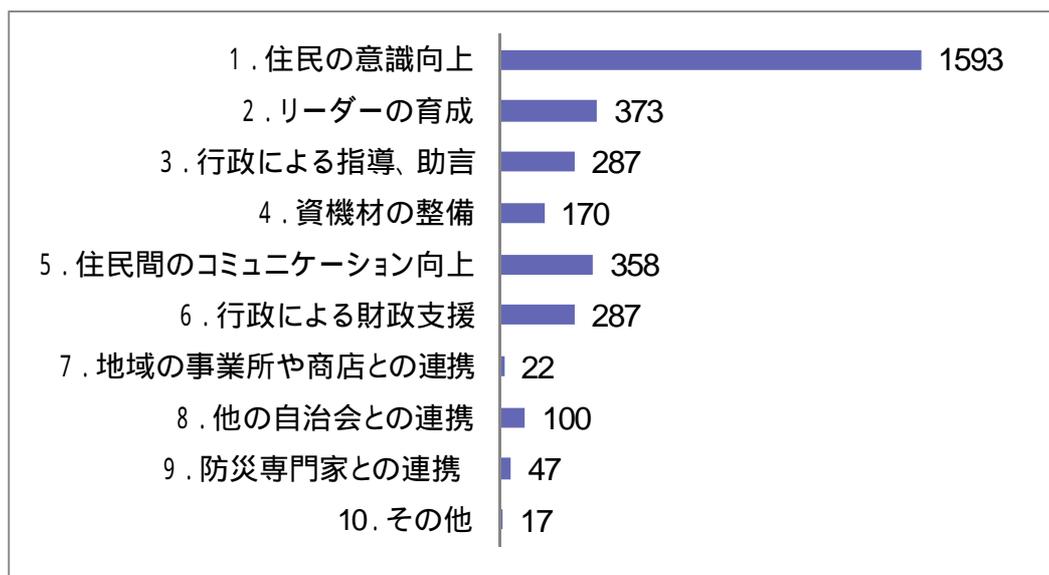
項 目	人数
1. 資材保管庫	845
2. 土のう袋	645
3. スコップ	907
4. のこぎり	515
5. ナタ・鎌	513
6. 掛矢・たこ槌	281
7. ハンマー	578
8. 木杭	183
9. ロープ	660
10. 船、ゴムボート	6
11. ジャッキ	427
12. ハンドマイク	852
13. 消火器	1216
14. バケツ	710
15. 断水時の水源(井戸やわき水など)	157
16. ブルーシート	862
17. 毛布	111
18. 食 料	53
19. 飲料水	49
20. その他	246
21. 準備や備蓄はしていない	687
回答なし	161



問19 あなたの自治会の防災力を高めるためには、何が一番必要だと考えますか。ひとつ をしてください。

64.6%の自治会で「住民意識の向上」が一番必要であると回答している。

項 目	人数
1. 住民の意識向上	1593
2. リーダーの育成	373
3. 行政による指導、助言	287
4. 資機材の整備	170
5. 住民間のコミュニケーション向上	358
6. 行政による財政支援	287
7. 地域の事業所や商店との連携	22
8. 他の自治会との連携	100
9. 防災専門家との連携	47
10. その他	17
回答なし	43



問 20 あなたの自治会の防災力を高めるためには、何が一番課題であると考えますか(自由回答)。

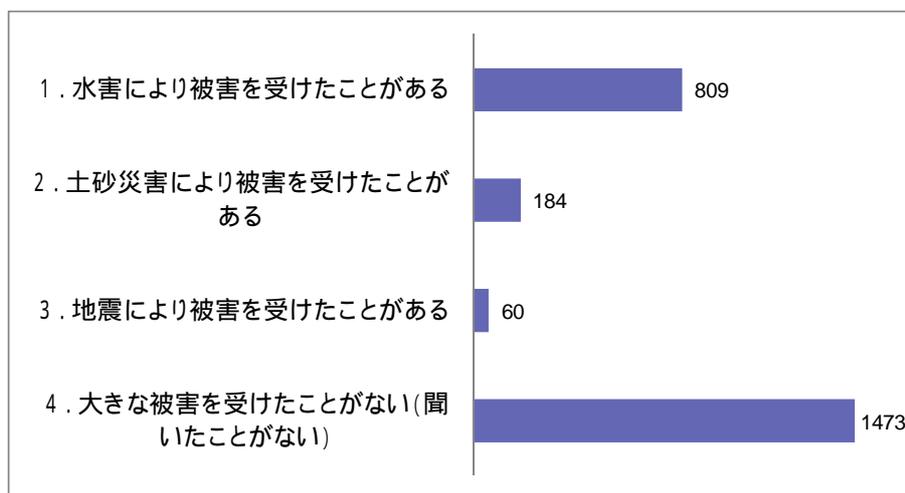
1	普段からの災害に対する関心と防災意識が必要である。 停電時にも放送が可能な、災害時に断線の発生しない無線放送で連絡できる事。
2	災難等にもし起きた時に一人では何もできない、いかに住民たちの協力があるか。
3	集落住民の協力
4	防災に対する意識が薄い。
5	高月町全域で一斉に実施をし、多くの住民が参加をしてもらい、まず意識向上を図る。
6	災害に対する各人の防災意識のアップ。
7	災害の怖さの住民の認識とその為の啓蒙活動
8	住民の方の意識向上と訓練及財政支援
9	住民の意識向上と行政の財政支援
10	防災訓練に住民の半数以上の参加があるよう、防災に対する住民の意識向上
11	体制の充実が必要と考えている。会社関係の協力を求めることも必要。
12	防災意識を確立し、区民に認識してもらう
13	資機材の整備に対する行政による財政支援
14	地震を想定して避難、救助訓練が、出来ておらず課題だと考える。
15	資機材の整備に必要な格納庫
16	日中は成人男が勤めの為、人がいなく老人、女性であり、災害発生時の初動防災対応が出来ない。 又老人、女性でも出来る設備、機材が無い。
17	住民の意識向上を高める事
18	問19
19	町民が万が一に備え研修を行うこと
20	大地震、大風水害に耐えることの出来る一時的避難所の設置と避難訓練。
21	1.携帯電話が通じない。付近にアンテナがぜひ必要(非常の連絡が出来ない) 2.行政による緊急連絡の方法をぜひ考えてほしい(電話が通じない時)
22	住民の意識向上
23	大北自治会は現在火災訓練のみ実施しており、今後の住民の意識向上をはかるために講習会等 が必要です。
24	防災活動(訓練等)を定期的に行い、防災用、資機材を整備すること。
25	火災が無い様にすること!
26	住民の家族構成がわからない。行政による意識の向上。リーダーの育成。

## 被災履歴について

問 21 あなたの自治会のある地域は、過去に自然災害により被害を受けたことがありますか。いくつでもしてください。

59.8%の自治会が、過去に自然災害による「大きな被害を受けたことがない」と回答している。

項目	人数
1. 水害により被害を受けたことがある	809
2. 土砂災害により被害を受けたことがある	184
3. 地震により被害を受けたことがある	60
4. 大きな被害を受けたことがない(聞いたことがない)	1473
回答なし	95

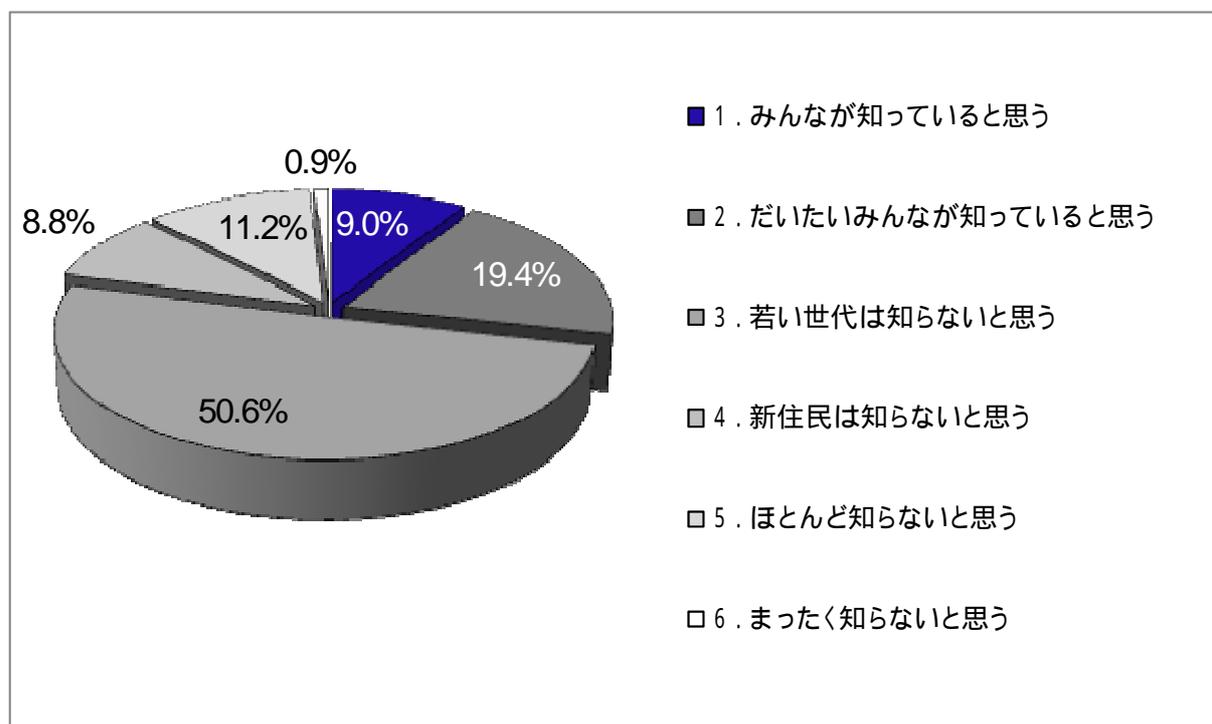


問 22 問 21 で被災を受けたことのある地域の方にお伺いします。

地域の皆さんはこうした過去の被災について知っていると思いますか。ひとつ をしてください。

回答のうち、59.4%が過去の被災について「若い世代」や「新住民」は知らないと思うと回答している。

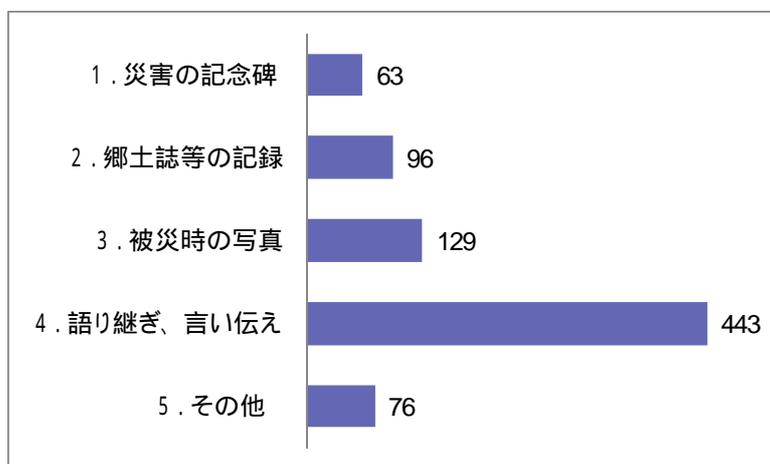
項 目	人数	割合
1. みんなが知っていると思う	79	9.0%
2. だいたいみんなが知っていると思う	170	19.4%
3. 若い世代は知らないと思う	443	50.6%
4. 新住民は知らないと思う	77	8.8%
5. ほとんど知らないと思う	98	11.2%
6. まったく知らないと思う	8	0.9%
回答なし	22	
回答数	875	



問 23 あなたの自治会のある地域の被災の記録や伝承がされているものをご記入ください。あてはまるものすべてに、 をしてください。

7割以上の自治会が本設問に対しての回答がなかった。また最も多かった伝承方法としては「語り継ぎ、言い伝え」で、回答者の67.1%であった。

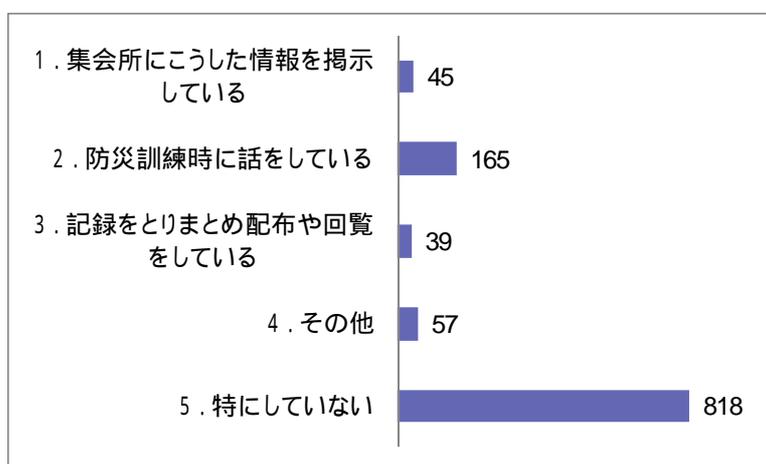
項 目	人数
1. 災害の記念碑	63
2. 郷土誌等の記録	96
3. 被災時の写真	129
4. 語り継ぎ、言い伝え	443
5. その他	76
回答なし	1795



問 24 地域の被災記録や伝承について、地域のみなさんが情報を共有できる工夫はされていますか。いくつでも をしてください。

回答のあった自治会の約8割では、地域の被災記録や伝承について情報を共有できる工夫を「特にしていない」という回答だった。

項目	人数
1. 集会所にこうした情報を掲示している	45
2. 防災訓練時に話をしている	165
3. 記録をとりまとめ配布や回覧をしている	39
4. その他	57
5. 特にしていない	818
回答なし	1380



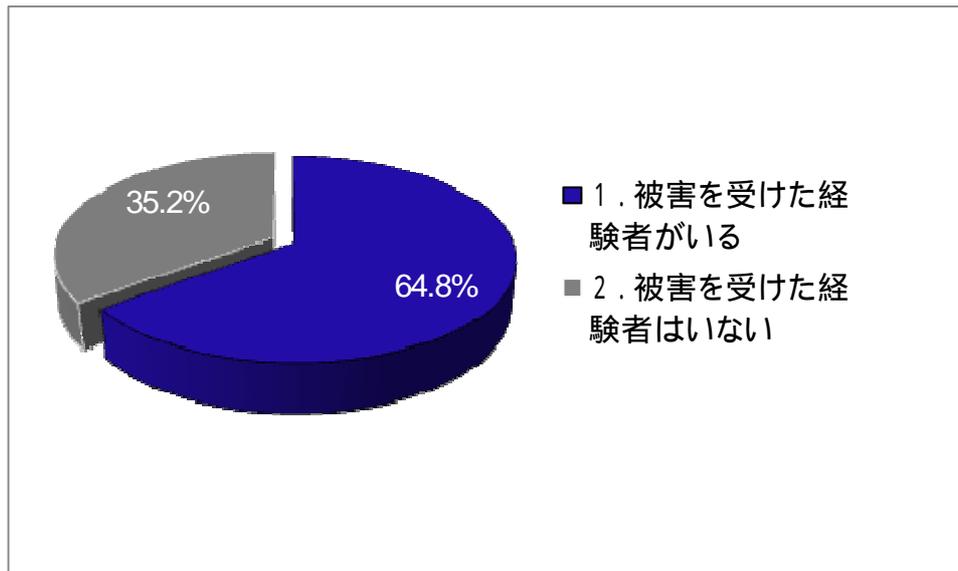
問 25 あなたの自治会の地域での被災体験・履歴について記入をお願いします。

	年	月	名称	災害時の様子	災害時に困ったこと	災害後に困ったこと
1	2006	6		大雨による		
2			伊勢湾台風	神社の来は何本か倒れた。家も何件か傾いた	避難場所がその年末にはなかった。	
3	45年ほど前			赤川の水があふれ、一部の路や宅地が浸水した。		
4			江戸時代の水害(西野水道貫通)	生前で細部は不明		
5	明治以前		大雨	土砂くずれ(2ヶ所)		
6	?		伊勢湾台風	家屋の浸水 30cm 位、ヨシ及袋が飛散した。	前もって分かっていたので特になし	住宅の補修
7			ジェーン台風、伊勢湾台風			
8	大正 10	6		高時川が欠陥し、集落内が浸水した。食事の運搬は、舟を使ってしたと聞く。		
9			伊勢湾台風	雨が多く、高時川の推移が上昇し橋まで来て馬上区南郷排水口より郷内に進入、水田の半分が水につかった。		
10				40年ぐらい前の台風での水害(床下浸水が有った)		河川改修後現在発生していない
11			台風19号	床下浸水、川の氾濫	道路が川になり、水圧で避難できなかった	後始末
12	昭和 45	7 頃		川の水があふれ川べりの農機倉庫が流され、橋につまり、水が川の両脇にあふれて流れた。山すその土砂くずれが起こった。昔、人が流されて死んだことがある。	家のまわりが洪水で家からの出口が亡くなった家があった。	村の入口で道路がえぐられ車の通行が不能になった。田畑に土砂が流れ込んで回復が大変だった。
13	昭和 34	9	伊勢湾台風	市道が全面くずれ落ちた矢倉川の土手が決壊した。	通学できなかった	田んぼに土砂が大量に入った
14				伊勢湾台風の1年前後に矢倉川土手修理完了後また同じ所が決壊した。		
15			伊勢湾台風	犬上川堤防が決壊し床下浸水した		数日後浸水が引かず、水びたしの生活だった

問 26 あなたの自治会には、被害を経験された方がおられますか。ひとつ をしてください。

本設問に回答のあった 64.8%の自治会において「被害を受けた経験者がいる」と回答している。

項 目	人数	割合
1.被害を受けた経験者がいる	653	64.8%
2.被害を受けた経験者はいない	354	35.2%
回答数	1007	

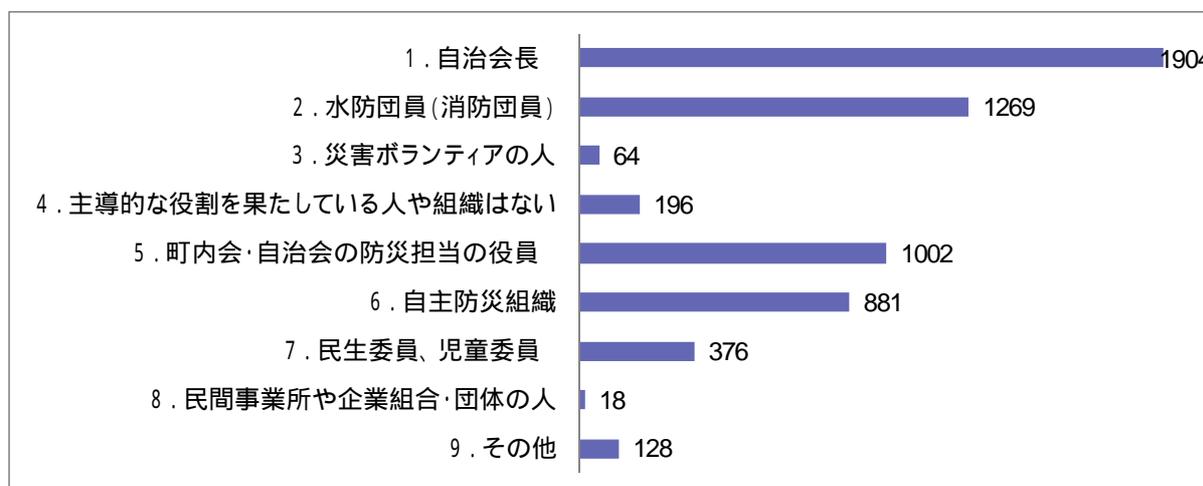


## 水害に対する地域防災力診断について

問 27 あなたの自治会の防災活動では、どのような人または組織が主導的な役割を果たしていますか。  
あてはまる人や組織をすべて をしてください。

防災活動において主導的な役割を果たしているのは、「自治会長」、「水防団員（消防団員）」との回答が多い。

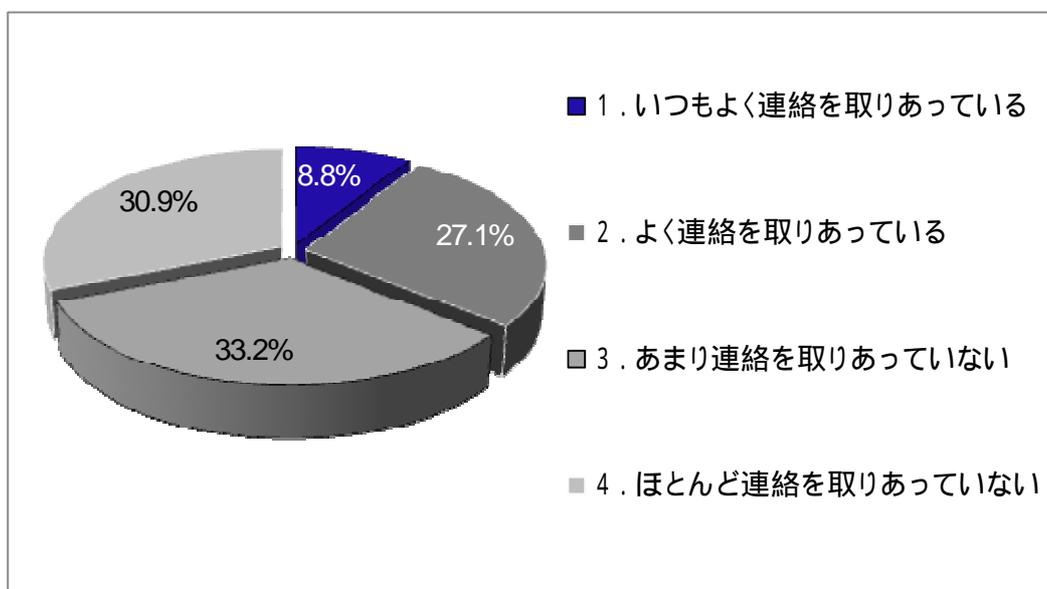
項 目	人数
1.自治会長	1904
2.水防団員(消防団員)	1269
3.災害ボランティアの人	64
4.主導的な役割を果たしている人や組織はない	196
5.町内会・自治会の防災担当の役員	1002
6.自主防災組織	881
7.民生委員、児童委員	376
8.民間事業所や企業組合・団体の人	18
9.その他	128
回答なし	55



問28 あなたの自治会は、防災面で何か困ったことがあったときなど、消防署や消防団・水防団と、いつも連絡を取り合っていますか。ひとつ をしてください。

計 35.9%の自治会が消防署・消防団・水防団と「よく連絡を取り合っている」と回答しているが、「ほとんど連絡を取り合っていない」と回答した自治会も30.9%にのぼる。

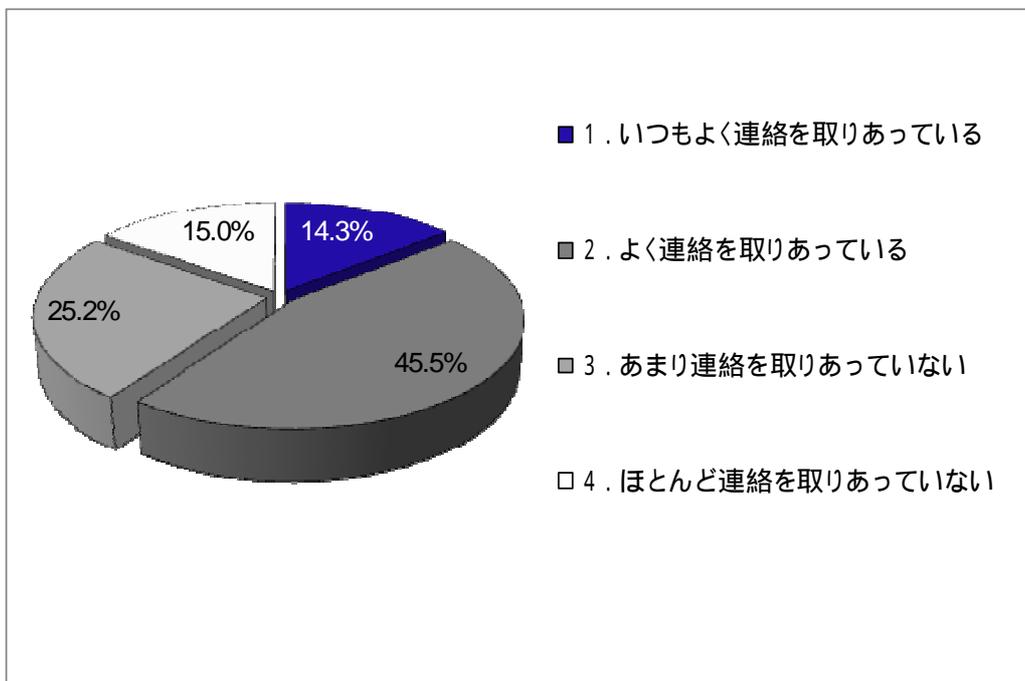
項 目	人数	割合
1.いつもよく連絡を取り合っている	210	8.8%
2.よく連絡を取り合っている	645	27.1%
3.あまり連絡を取り合っていない	790	33.2%
4.ほとんど連絡を取り合っていない	736	30.9%
回答なし	81	
回答数	2381	



問 29 あなたの自治会は、防災面にかかわらず、何か困ったことがあったときなど、市役所や町役場とふだんから連絡を取りあっていますか。ひとつ をしてください。

計 59.8%の自治会が市役所や町役場とよく連絡を取り合っていると回答している。

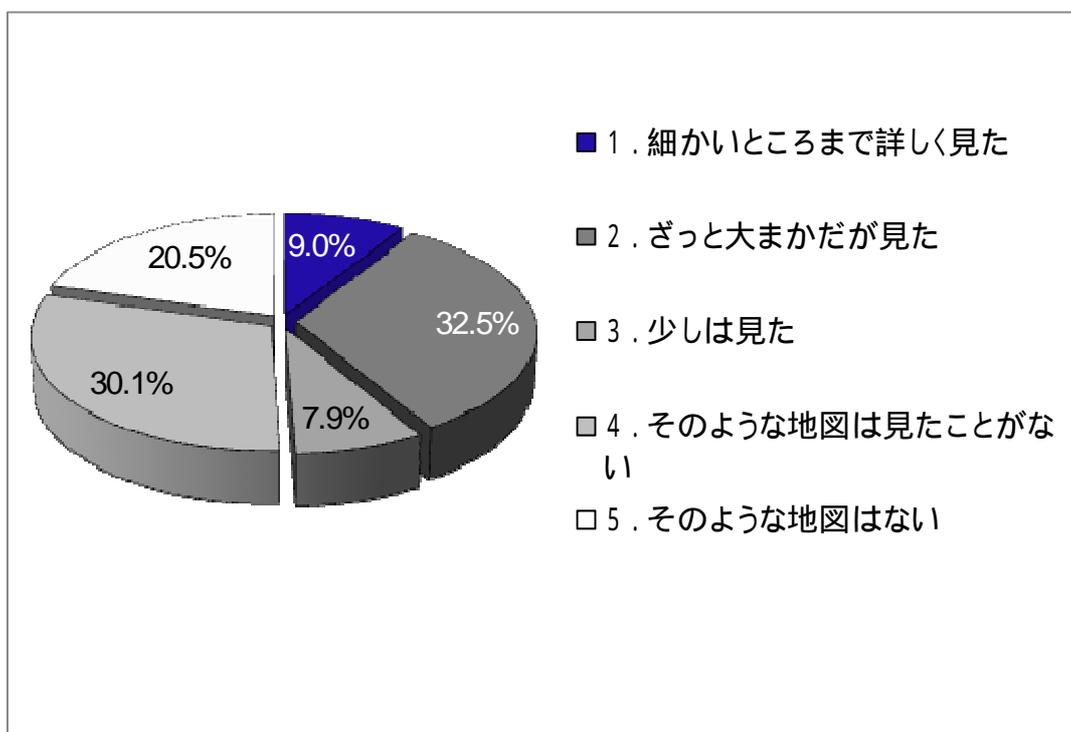
項 目	人数	割合
1. いつもよく連絡を取りあっている	344	14.3%
2. よく連絡を取りあっている	1098	45.5%
3. あまり連絡を取りあっていない	608	25.2%
4. ほとんど連絡を取りあっていない	363	15.0%
回答なし	52	
回答数	2413	



問 30 あなたの自治会における河川の堤防決壊などの洪水による浸水発生の可能性がわかる「(河川)洪水ハザードマップ」「(災害)ハザードマップ」「浸水実績図」などの名称の場合もあります)を、ご覧になりましたか。ひとつ をしてください。

50.6%の自治会で洪水ハザードマップ等を「見たことがない」もしくは「ない」と回答している。

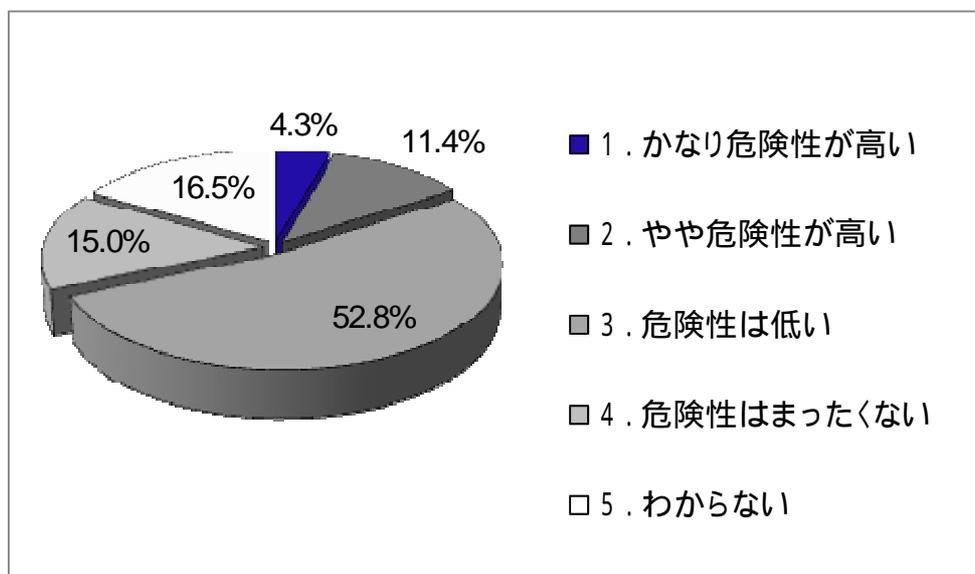
項 目	人数	割合
1.細かいところまで詳しく見た	212	9.0%
2.ざっと大まかだが見た	769	32.5%
3.少しは見た	188	7.9%
4.そのような地図は見たことがない	711	30.1%
5.そのような地図はない	486	20.5%
回答なし	99	
回答数	2366	



問 31 今後10年のうちに、あなたの自治会内で、床上浸水のような大きな浸水被害が発生する危険性はどの程度あると思いますか。ひとつ をしてください。

床上浸水のような大きな浸水被害が発生する危険性について、「低い」考えている自治会が最も多く52.8%にのぼる。次いで「まったくない」が15.0%である。

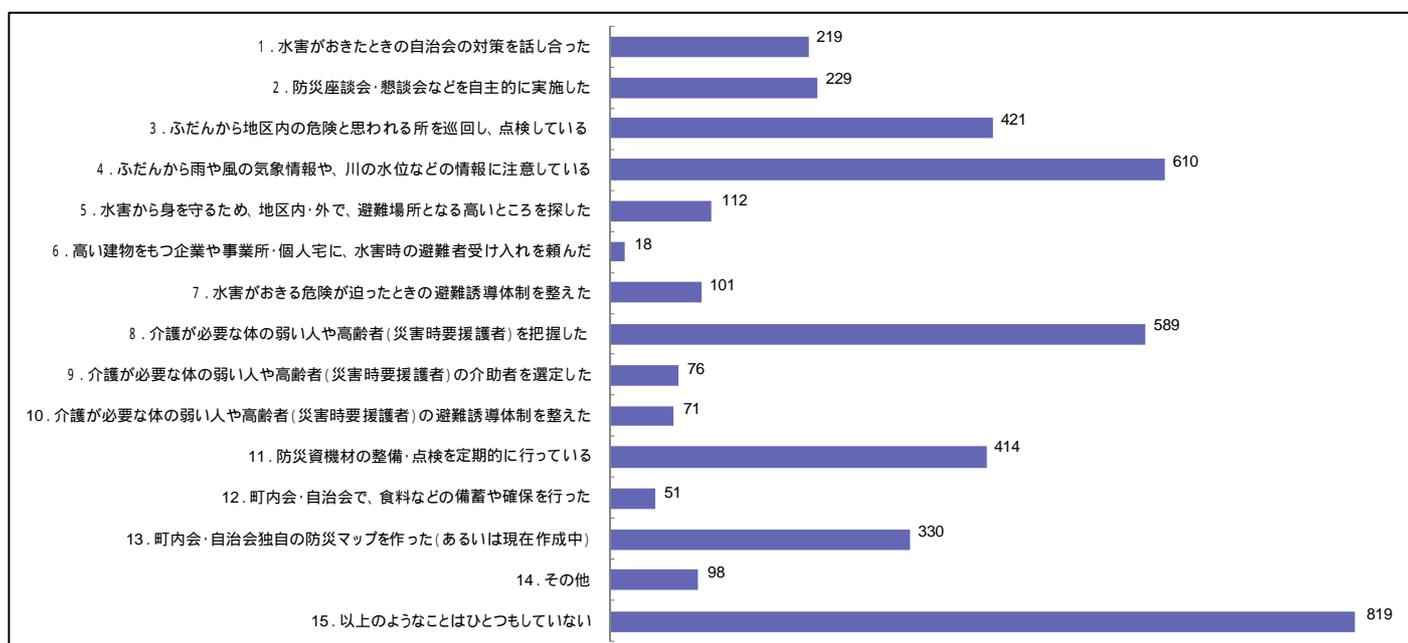
項 目	人数	割合
1. かなり危険性が高い	105	4.3%
2. やや危険性が高い	277	11.4%
3. 危険性は低い	1281	52.8%
4. 危険性はまったくない	364	15.0%
5. わからない	400	16.5%
回答なし	38	
回答数	2427	



問 32 あなたの自治会では、この2～3年間に、次にあげるような水害についての対策を自主的に実施していますか。自主的に実施したものをいくつでも選んで、 をしてください。

水害についての対策を「ひとつもしていない」自治会が最も多い(33.2%)。対策を実施している自治会では、「ふだんから雨や風の気象情報や、川の水位などの情報に注意している」(24.7%)、「介護が必要な体の弱い人や高齢者(災害時要援護者)を把握した」(23.9%)が多い。

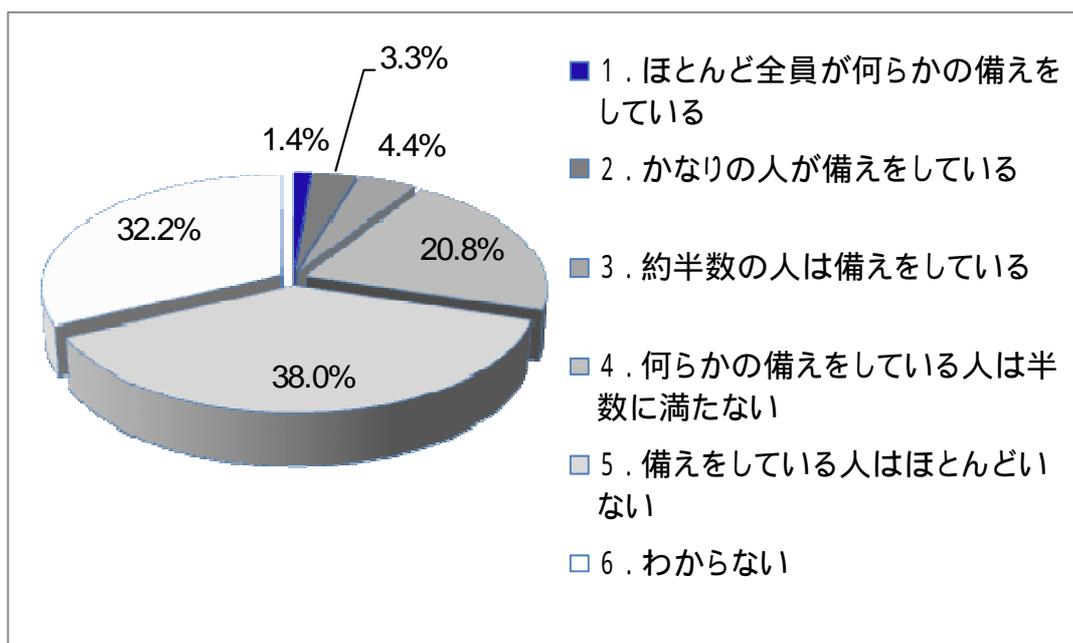
項 目	人数
1. 水害がおきたときの自治会の対策を話し合った	219
2. 防災座談会・懇談会などを自主的に実施した	229
3. ふだんから地区内の危険と思われる所を巡回し、点検している	421
4. ふだんから雨や風の気象情報や、川の水位などの情報に注意している	610
5. 水害から身を守るため、地区内・外で、避難場所となる高いところを探した	112
6. 高い建物をもつ企業や事業所・個人宅に、水害時の避難者受け入れを頼んだ	18
7. 水害がおきる危険が迫ったときの避難誘導體制を整えた	101
8. 介護が必要な体の弱い人や高齢者(災害時要援護者)を把握した	589
9. 介護が必要な体の弱い人や高齢者(災害時要援護者)の介助者を選定した	76
10. 介護が必要な体の弱い人や高齢者(災害時要援護者)の避難誘導體制を整えた	71
11. 防災資機材の整備・点検を定期的に行っている	414
12. 町内会・自治会で、食料などの備蓄や確保を行った	51
13. 町内会・自治会独自の防災マップを作った(あるいは現在作成中)	330
14. その他	98
15. 以上のようなことはひとつもしていない	819
回答なし	99



問 33 あなたの自治会の住民のなかで、水害から自分たちの生命や財産を守るために何らかの対策を実施している人は、どのくらいいると思いますか。ひとつ をしてください。

「備えをしている人はほとんどいない」と考えている自治会長が 38.0%で最も多い。水害について自ら対策を実施している人が半数以上いると考えている自治会は、全体の 9.1%である。

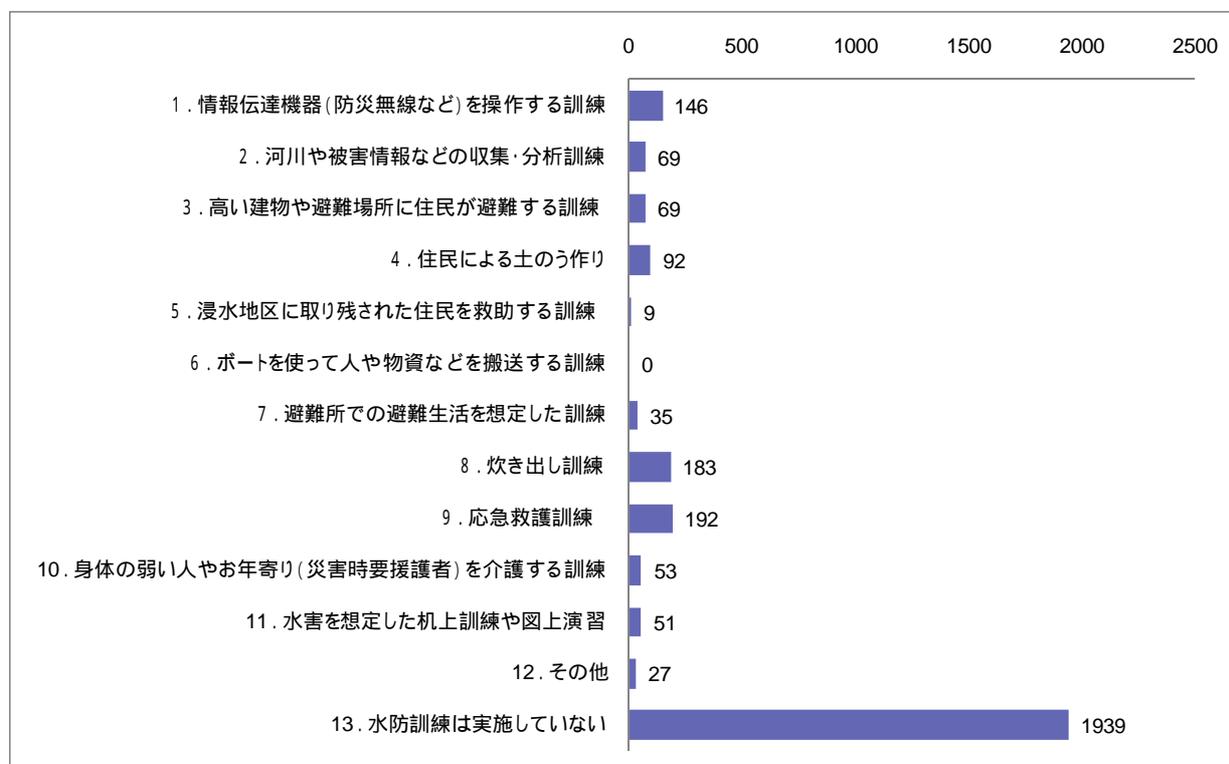
項 目	人数	割合
1. ほとんど全員が何らかの備えをしている	33	1.4%
2. かなりの人が備えをしている	78	3.3%
3. 約半数の人は備えをしている	105	4.4%
4. 何らかの備えをしている人は半数に満たない	500	20.8%
5. 備えをしている人はほとんどいない	911	38.0%
6. わからない	773	32.2%
回答なし	60	
回答数	2405	



問 34 あなたの自治会では、次にあげるような水害に備えるための訓練(水防訓練)のうち、どれを実施していますか。行政主催の訓練への参加や自治会で実施している訓練を、すべて をしてください。

80.7%の自治会で「水防訓練は実施していない」という回答であった。実施している自治会で多いのは「応急救護訓練」、「炊き出し訓練」である。

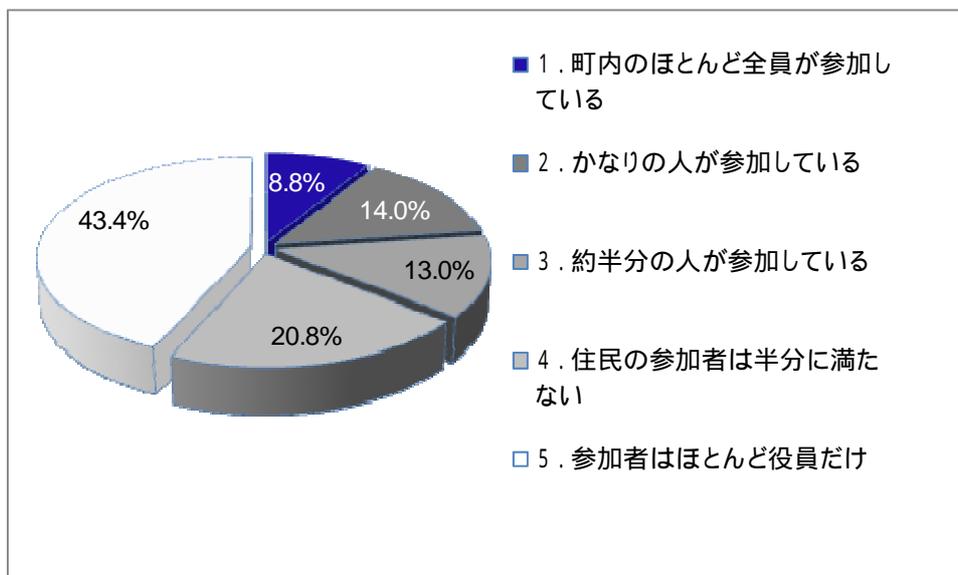
項 目	人数
1. 情報伝達機器(防災無線など)を操作する訓練	146
2. 河川や被害情報などの収集・分析訓練	69
3. 高い建物や避難場所に住民が避難する訓練	69
4. 住民による土のう作り	92
5. 浸水地区に取り残された住民を救助する訓練	9
6. ボートを使って人や物資などを搬送する訓練	0
7. 避難所での避難生活を想定した訓練	35
8. 炊き出し訓練	183
9. 応急救護訓練	192
10. 身体の弱い人やお年寄り(災害時要援護者)を介護する訓練	53
11. 水害を想定した机上訓練や図上演習	51
12. その他	27
13. 水防訓練は実施していない	1939
回答なし	120



問 35 最近行った水害に備えるための訓練(水防訓練)には、地区住民のうち、どれくらいの人に参加しましたか。ひとつ をしてください。

水防訓練を実施している自治体のうち、「参加者はほとんど役員だけ」の自治会が 43.4%と最も多い。住民の半分以上が参加していると回答したのは 35.8%である。

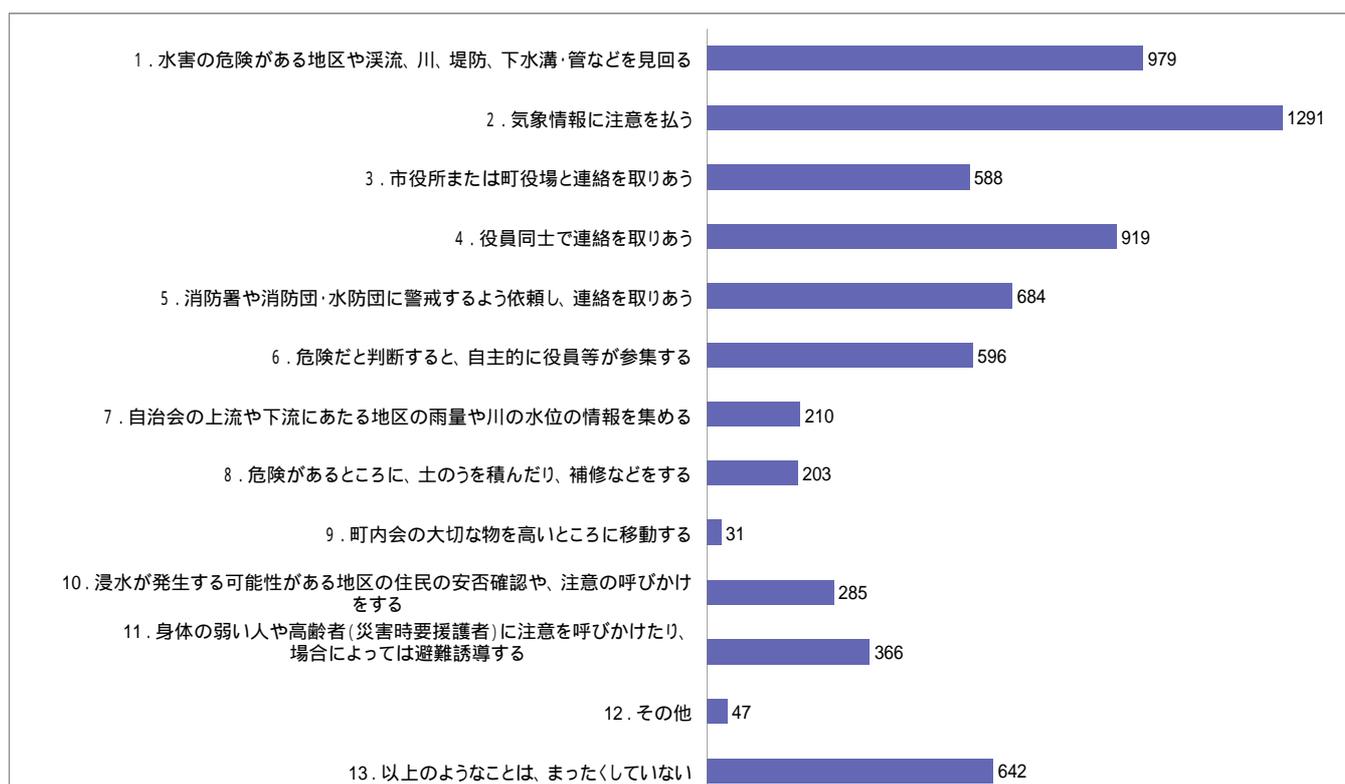
項 目	人数	割合
1. 町内のほとんど全員が参加している	36	8.8%
2. かなりの人が参加している	57	14.0%
3. 約半分の人が参加している	53	13.0%
4. 住民の参加者は半分に満たない	85	20.8%
5. 参加者はほとんど役員だけ	177	43.4%
回答なし	2057	
回答数	408	



問36 長雨が続きたり、雨が強まったりして水害の危険が高まったとき、あなたの自治会ではどのようなことをしますか。これまでの経験から、あてはまるものをいくつでも をしてください。

「気象情報に注意を払う」(52.4%)が最も多く、次いで「水害の危険がある地区や溪流、川、堤防、下水溝・管などを見回る」(39.7%)、「役員同士で連絡を取りあう」(37.3%)の順に多い。

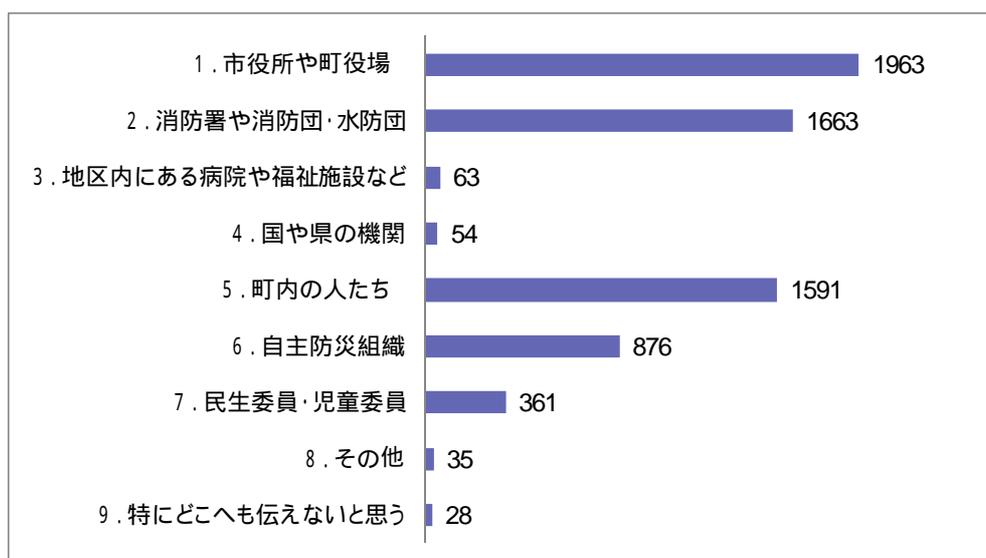
項 目	人数
1. 水害の危険がある地区や溪流、川、堤防、下水溝・管などを見回る	979
2. 気象情報に注意を払う	1291
3. 市役所または町役場と連絡を取りあう	588
4. 役員同士で連絡を取りあう	919
5. 消防署や消防団・水防団に警戒するよう依頼し、連絡を取りあう	684
6. 危険だと判断すると、自主的に役員等が参集する	596
7. 自治会の上流や下流にあたる地区の雨量や川の水位の情報を集める	210
8. 危険があるところに、土のうを積んだり、補修などをする	203
9. 町内会の大切な物を高いところに移動する	31
10. 浸水が発生する可能性がある地区の住民の安否確認や、注意の呼びかけをする	285
11. 身体の弱い人や高齢者(災害時要援護者)に注意を呼びかけたり、場合によっては避難誘導する	366
12. その他	47
13. 以上のようなことは、まったくしていない	642
回答なし	96



問 37 もしも、あなたまたは自治会の役員の方などが、洪水による浸水が発生する可能性が大きくなったと判断したとき、その情報をどこへ伝えますか。あてはまると思われるものをいくつでも をしてください。

最も多かったのは「市役所や町役場」（79.6%）で次いで「消防署や消防団・水防団」（67.5%）が多い。「町内の人たち」に情報を伝達するとの回答は64.5%であった。

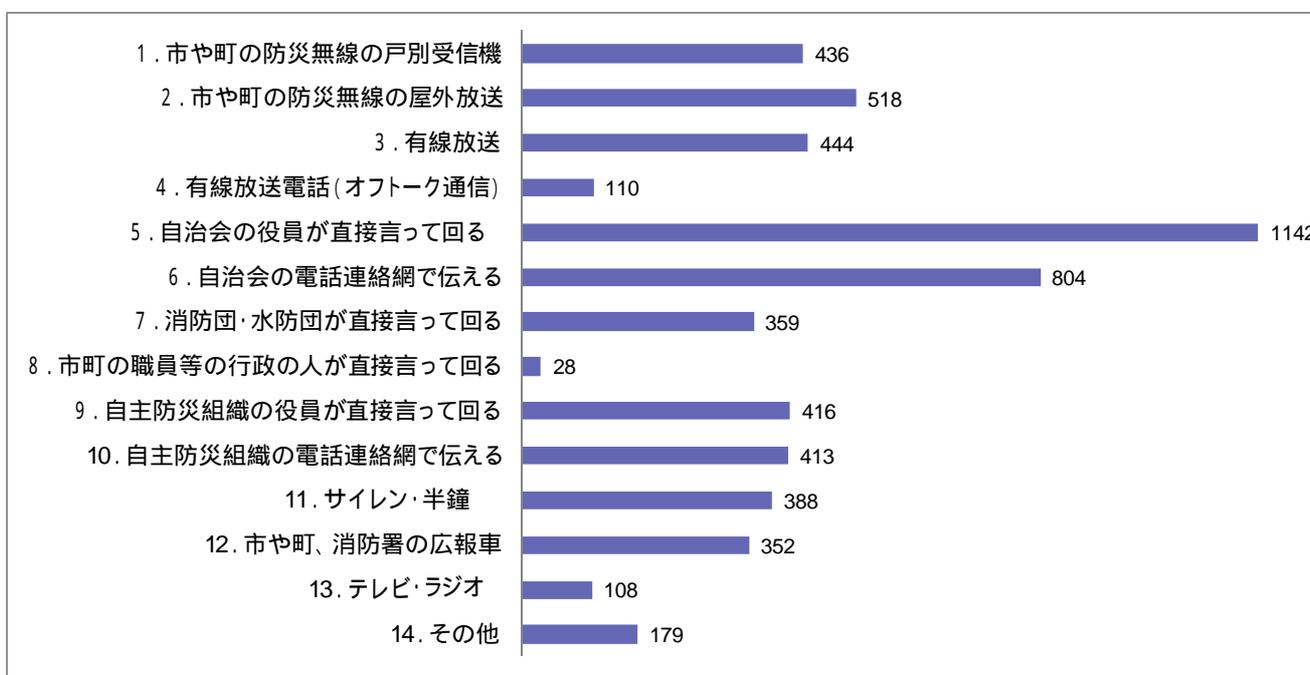
項 目	人数
1.市役所や町役場	1963
2.消防署や消防団・水防団	1663
3.地区内にある病院や福祉施設など	63
4.国や県の機関	54
5.町内の人たち	1591
6.自主防災組織	876
7.民生委員・児童委員	361
8.その他	35
9.特にどこへも伝えないと思う	28
回答なし	70



問 38 あなたの自治会では住民に、緊急に一齐に情報を知らせるための手段として、どのようなものを使うことになっていますか。使うと思われるものをすべてに をしてください。

約半数(46.3%)の自治会で、緊急時の連絡は「自治会の役員が直接言って回る」と回答している。次いで多いのは「自治会の連絡網で伝える」(32.6%)手段である。

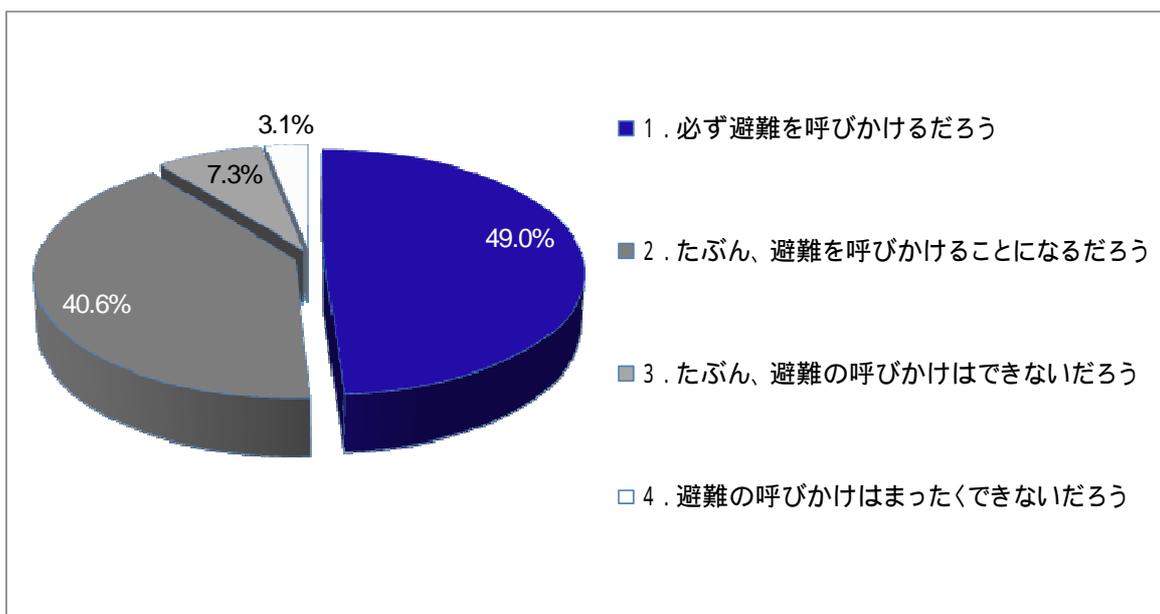
項 目	人数
1.市や町の防災無線の戸別受信機	436
2.市や町の防災無線の屋外放送	518
3.有線放送	444
4.有線放送電話(オフトーク通信)	110
5.自治会の役員が直接言って回る	1142
6.自治会の電話連絡網で伝える	804
7.消防団・水防団が直接言って回る	359
8.市町の職員等の行政の人が直接言って回る	28
9.自主防災組織の役員が直接言って回る	416
10.自主防災組織の電話連絡網で伝える	413
11.サイレン・半鐘	388
12.市や町、消防署の広報車	352
13.テレビ・ラジオ	108
14.その他	179
回答なし	70



問 39 あなたの自治会のある地域で、もしも洪水による浸水が発生する危険が大きくなった場合、自治会あるいは自主防災組織として、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけますか。ひとつ をしてください。

洪水による浸水が発生する危険が大きくなった場合、「必ず避難を呼びかける」「たぶん、避難を呼びかけることになるだろう」と考えている自治会が約9割（89.6%）である。

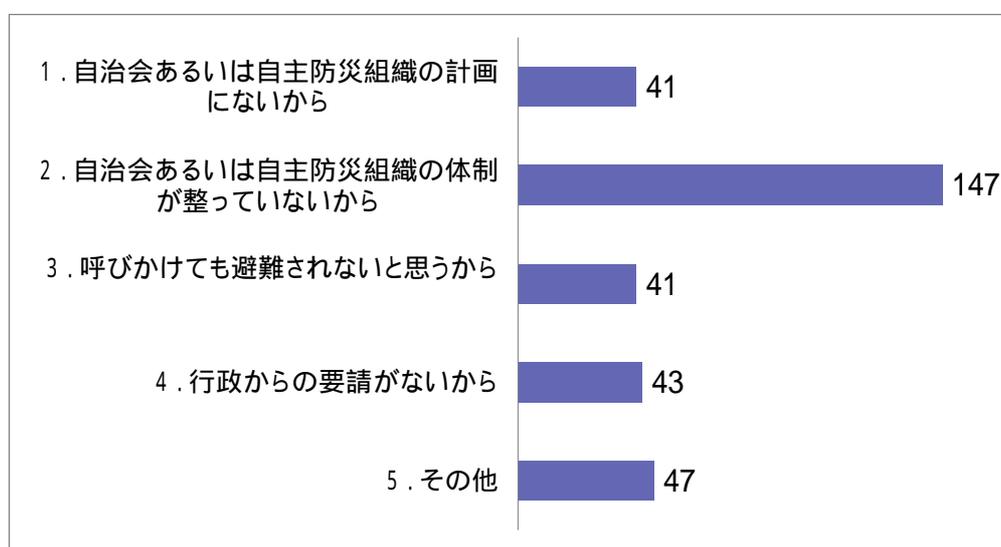
項 目	人数	割合
1. 必ず避難を呼びかけるだろう	1150	49.0%
2. たぶん、避難を呼びかけることになるだろう	951	40.6%
3. たぶん、避難の呼びかけはできないだろう	172	7.3%
4. 避難の呼びかけはまったくできないだろう	72	3.1%
回答なし	120	
回答数	2345	



問40 問39で、「たぶん、避難の呼びかけはできないだろう」又は「避難の呼びかけはまったくできないだろう」とお答えになった方へ、なぜそう考えられたのか、その理由をいくつでも をしてください。

洪水時に避難を呼びかけることができない理由として、「自治会あるいは自主防災組織の体制が整っていないから」と回答した自治体が60.2%で最も多い。

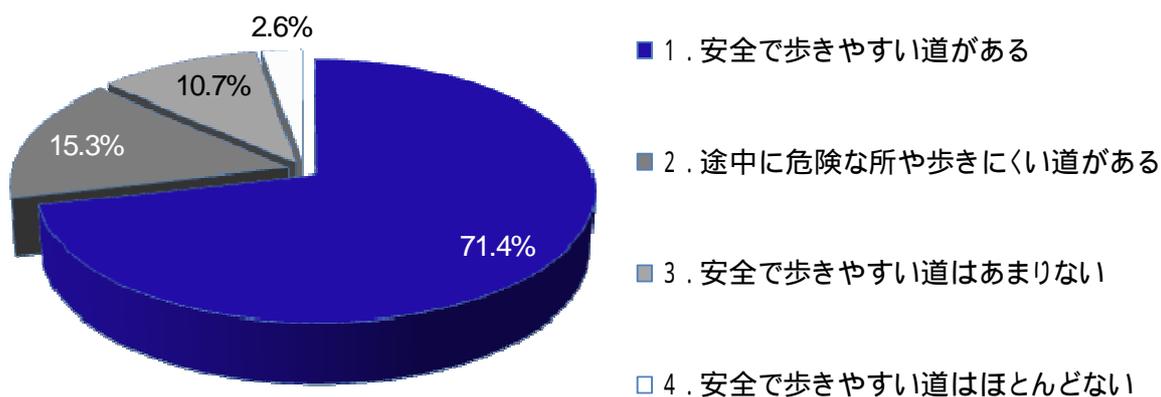
項目	人数
1.自治会あるいは自主防災組織の計画にないから	41
2.自治会あるいは自主防災組織の体制が整っていないから	147
3.呼びかけても避難されないと思うから	41
4.行政からの要請がないから	43
5.その他	47



問 41 水害の危険が高まり避難することになったとき、安全な道を通って、安全な避難場所に行くことはできますか。ひとつ をしてください。

7割以上(71.4%)の自治会で、水害の危険が高まったときに「安全で歩きやすい道がある」と回答している。

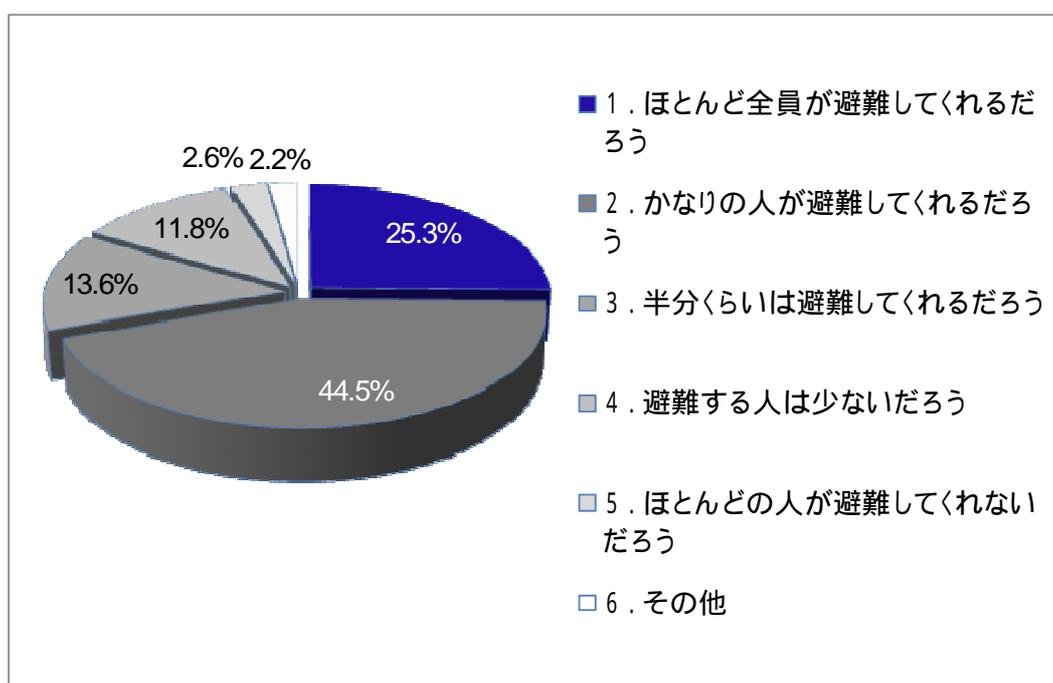
項 目	人数	割合
1.安全で歩きやすい道がある	1609	71.4%
2.途中に危険な所や歩きにくい道がある	345	15.3%
3.安全で歩きやすい道はあまりない	240	10.7%
4.安全で歩きやすい道はほとんどない	59	2.6%
回答なし	212	
回答数	2253	



問 42 自治会、自主防災組織または消防団や水防団が、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけた場合、どのくらいの人が避難に応じてくれると思いますか。ひとつ をしてください。

7 割近く (69.8%) の自治会が、洪水による浸水の危険性があるときに「『かなり』もしくは『ほとんど全員』の人が避難してくれるだろう」と回答している。

項 目	人数	割合
1. ほとんど全員が避難してくれるだろう	589	25.3%
2. かなりの人が避難してくれるだろう	1037	44.5%
3. 半分くらいは避難してくれるだろう	316	13.6%
4. 避難する人は少ないだろう	275	11.8%
5. ほとんどの人が避難してくれないだろう	61	2.6%
6. その他	51	2.2%
回答なし	127	
回答数	2329	



問 43 あなたの自治会のある地域が、万一水害で水浸しになってしまった場合、自治会では、どのような活動をすると思いますか。水害が発生してから3日目くらいまでに活動すると思われることを、いくつかを教えてください。

最も多い回答が「居住者の安否を確認して回る」（86.3%）で、次いで「災害時要援護者の安否の確認や介護」（68.8%）、「行方不明者を捜索」（54.7%）の順に多い。

項目	人数
1. 行方不明者を捜索する	1348
2. 居住者の安否を確認して回る	2127
3. 身体の弱い人や高齢者など(災害時要援護者)の安否の確認や介護をする	1697
4. 浸水した地域に取り残された人々をボートなどで救出する	385
5. 浸水した地域に取り残された人々に食料などを配給する	729
6. 被災した人に避難所で救援活動をする	1252
7. 暖かい食べ物などの炊き出しをする	1303
8. 避難所の運営をする	903
9. がれきを処理したり、浸水地区の掃除や後片づけをする	962
10. 被災した人へのお見舞い金を集める	289
11. その他	41
12. 何もできないと思う	79
回答なし	97

